

348
286

在郷軍人會本部編纂

新撰
軍人と青年の書簡文



特

始



特231
109



撰新
軍人と青年の書簡文



序

軍人諸君は國家の干城であり國民の儀表である、又青年諸君は其の後繼者として郷黨の中堅である。従つて此等の人々は日常書簡文を認め、或は改まつて挨拶等をする機會が非常に多い事は申す迄もない。

從來軍人の書簡文集は随分澤山出版せられ、市井の書店に陳列されて居るが、時勢に適應した將又軍隊生活の實際なり青年諸君の心理に即した文集は極めて少ない。

編者は多年軍隊教育及青少年教育の實際に従事し

苦樂を共にした關係上、多忙な軍隊生活や本業の餘暇に、文詞を習得しようとする青年諸君の爲めに「スグ役に立つ」をモットウに編纂したのが本書である。本書を座右に備へられたならば、軍隊行事の凡てに亘り、故郷の父母兄弟に、或は十呂盤持つ友人に、歛取る親友に通信するるとき、スグそのまゝ役に立つ事疑いない、尙未入營の諸君にとつては、本書によつて軍隊生活の實狀と、軍人心理とがはつきりと會得出来ると思ふ。

昭和八年三月

編者識

新撰 軍人と青年の書簡文

目次

第一編 手紙文の作り方	一
第一章 總 說	一
第二章 手紙文を作る心得	三
第一 用件をはつきり書く事	三
第二 簡單明瞭に書く事	四
第三 平易に書く事	五
第四 つやをつけて文を生かす事	五
第五 敬意を失しない様に注意する事	六
第六 書き終つたら必ず読み返す事	七
第三章 手紙文の様式	八

第一 手紙文の文體……………八
 第二 候文と口語文……………八

第四章 手紙文の組立て方……………九

第一 候 文……………九

第二 口 語 文……………三

第三 候文と口語文との語句の對照……………三

第五章 手紙文の書き方……………四

第一 封書の書き方……………四

一 日本式封書の書き方……………四

イ 前後の空け方……………五

ロ 天地の空け方……………五

ハ 字の大さと行間の空け方……………五

ニ 字 體……………五

水 假 名……………六

へ 認め方の注意……………六

ト 署名の書き方……………七

チ 宛名の書き方……………七

リ 添へ書き（追て書）の書き方……………八

又 脇附の書き方……………八

ル 卷紙の巻き方と封じ方……………九

ヲ 封筒の書き方と封の書き方……………九

二 洋式便箋及封筒の書き方……………二

第二 はがきの書き方……………三

一 普通はがきの書き方……………三

二 繪はがきの書き方……………三

三 往復はがきの書き方……………四

四 封緘はがきの書き方……………五

第六章 手紙文の用語例

第一 冠詞(起筆用語).....六

一 送信の場合.....六

二 返信の場合.....六

第二 時候挨拶の用語.....七

 嚴冬—一月 晩冬—二月 初春—三月 仲春—四月

 晩春—五月 初夏—六月 盛夏—七月 晩夏—八月

 初秋—九月 仲秋—十月 晩秋—十一月 初冬—十二月

第三 安否に關する用語.....六

一 先方の無事を祝福する用語.....六

二 先方の安否を問ふ用語.....六

三 自分の無事を知らせる用語.....六

第四 疎遠を謝する用語.....六

第五 謝禮の用語.....六

第六 謝罪の用語.....三

第七 物を送る時の用語.....三

第八 案内の用語.....三

第九 参上の用語.....三

第十 死去の用語.....三

第十一 末文の用語.....四

一 普通の結び方.....四

二 傳信を依頼しての結び方.....四

三 傳言を傳へての結び方.....四

四 先方の自愛を祈りての結び方.....五

五 依頼の文にて結び方.....五

六 面會又は後便を期しての結び方.....五

七 急ぎの時の結び方.....五

八 結び(留書)の用語.....六

第二編 手紙の文例

九 追て書き(添書)の用語	三六
十 後附の用語	三六
敬稱用語	三六
脇附用語	三六
十一 自他の稱呼	三六
十二 忌言葉	四一
婚禮の忌言葉	四一
凶事の忌言葉	四一
一 入營に關するもの	四三
二 年賀に關するもの	五三
三 時候見舞に關するもの	六二
四 祝賀に關するもの	七三
五 病氣其他見舞に關するもの	八〇
六 謝禮に關するもの	八六

七 弔慰凶事に關するもの	九八
八 報知等に關するもの	一〇一
九 依頼、注文、相談等に關するもの	一〇七

第三編 挨拶の仕方と例

第四編 禮儀と作法

禮儀作法	一四五
敬禮	一四八
座作進退	一五〇
喫煙	一五一
談話	一五三
訪問及名刺	一五三
饗宴	一五五

賀儀葬祭	一七〇
贈答	一五九

第五編 郵便電報に関する智識

第一章 郵便

第一 通常郵便の種類と料金	一六二
第二 小包郵便の料金	一六三
第三 内國郵便物重量、容積の制限	一六四
第四 特殊郵便の種類と料金	一六五
一 航空郵便に就て	一六六
第五 郵便電信爲替及振替	一六七

第二章 電報

一 電報料金	一六九
--------	-----

電報—文字と数字—認め方—電報文例—電話をかける時の注意

第三章 郵便物取扱に関する注意

第一 包装に関する注意	一七四
第二 反則の郵便物	一七五
一 郵便禁制品	一七五
二 其他	一七六
三 處分	一七六

目次終

新軍人と青年の書簡文

第一編 手紙文の作り方

第一章 總 説

世の中に人と話をしないですむ人があるだらうか。手紙の使命は逢うて話し合ふ代りに、自分で言はうと思ふ事を書いて、先方に傳へるのであるから、誰にも生活に手紙はつきものである。今こゝに或用件があつて人を訪問したとする。「御免下さい」というて案内を乞ひ、その人に面會したならば、鄭重に會釋をして、先づ時候の挨拶をするとか、平素の御無沙汰を謝するとかしてから用件を話し、用談の後には「何分宜しく」とか、「皆様に宜しく」とか挨拶をし、又初めの様に鄭重に會釋をして辭するのが世間一般のならばしである。普通には右に述べた通りだが、話し合ふにしても相手は千差萬別である。そこで所謂「座を見て

法を説け」で、相手の如何によつては、鄭重を極めなければならぬ場合もあるし、忙はしい會社や商店などに用談があつて行つた様な時は、挨拶なんか全く抜きにして、最初から用談に取りかゝる事が適當な場合もあるし、又最も親しい友達の所などは、「オーイ居るかい」、「斯んな用事を頼みに来た」でもすむ場合もある。手紙を書く場合も全くこれと同じ事で、相手如何といふ事を考へ、之に適應する様に、繁簡宜しきを得なければならぬ。

手紙は話しの様で容易でない。従つて書き馴れないと遂に億劫になり勝つものである。親類のものが病氣で寝て居ると聞いても、筆が進まないで遂に舞も出さず、友人に祝事があつても、手紙の文がよく綴れないばかりに、失禮してしまふといふ風になつて、其の間柄がだん／＼疎遠になり、その人の家にも往きにくくなるといふ事になる。殊に商賣上の事などになると、手紙が自由にかけないばかりに、返事も出さないで取引先の信用を失つたり、大事な華客先に失禮したりして、直接自分の損失になる事が多い。それが手紙が自由にすらく／＼と書けると、親類、知己の間も何時でも親密を保ち、御互に好意を以て助け合つて行く事にもなるし、商賣上の事では、取引先や華客の信用を増し、手紙によつて商機を掴んで成功するといふ事にもなる。

殊に軍人諸君の大部分は、故郷を遠く離れて軍隊生活を送られるのであるから、在營間遠く山河

を隔てた父母、兄弟、親戚、知己、友人等に安否を問ひ、又こちらの消息を傳へるといふ場合が多い。従つて手紙をかく機会が相當に多いと思ふ。また在營中ばかりでなく、退營歸郷の後郷黨の中堅として、又各種の職業に活動せられるにしても、益々手紙の必要を感じらるゝであらう。

現在の青年諸君は、將來入營せられると否とに論なく、活社會に出て奮闘せられる爲めには、いよく益々手紙を書く必要に迫られる場合が多くなるに違ひない。

手紙の文は決してむづかしいものでない。本書によつて一通り書き方、組立て方並に慣用語や禮式などを會得し、その上文例を讀まれたならば、それから先の活用は容易なものとなるだらう。

第二章 手紙文を作る心得

第一 用件をはつきり書く事

昔から手紙の文で、名文として今日に傳はつて居るものも少くない。しかしながら吾人は、敢て名文を作る事を望む必要はない。現今の活社會に立派に役立つだけの文が出来たらば、それで満足してよい。

それでは實際役に立つ手紙とはどんなものか。それは手紙に書いた用件が、誰にでもはつきり判

るといふ事である。それには手紙を書くときに、此の手紙は「何のために書くのか」といふ事を寫
と考へる必要がある。そして先方の頭に用件をピンと響かせる様に工夫する事だ。

むやみに難解な字句を並べたり、長たらしく書き下したり、又どれが主要な用件か判らなかつた
り、返事がいるのかいらぬのか不明であつたのでは、讀む方で迷惑なばかりでなく、これでは實際
手紙の用をなさない事になる。

第二 簡單明瞭に書く事

此忙しい社會で活動して居る人が、冗長な手紙を讀まされる位迷惑至極な事はあるまい。冗長な
文は、手紙の用件がはつきりしないばかりでなく、全文の意味をあいまいにしてしまふ虞がある。
それ故出来るだけ贅語を省き、簡單明瞭に書く様に注意する事が必要である。それには初めに、
斯くく々の用件を如何に書き表すべきかといふ事をよく考へ、頭の中で順序を立て、から、筆をと
らねばならぬ。

書き馴れない人は、漫然筆をとり、書いては消し、消しては破るといふ風に、何時間たつても一
通の手紙が、まとまらない事がある。簡單明瞭に書き表はさうとするには、最初此の腹案をしつか
り立てる事をゆるがせにしてはならぬ。

第三 平易に書く事

手紙に自分でも判らぬ様な難解な字句や、熟語や、外國語などを並べて得意がつてる人がある。
又あちら、こちらから、色々な文句を引き出して来て、之をつなぎ合せ、自分ではよいつもりで居
るが、識者がこれを見ると、全く木に竹をつぎ合せた様な、滑稽なものが出来上つて居るのに氣の
つかぬ人もある。大體馴れない人や、半可通の人にこんなのが多い。こんなのは大變な心得違ひで
ある。平易な素朴なもの程自然で奥床しさもあり、深みもある。平易に書いたならば、相手から學問
の程度が低い様に思はれはしないかとの心配は、全く餘計な苦勞である。

それから軍人の手紙に、兵語をそのまま書いてあるのを見受けるが、これは注意しないといけな
い。相手によつては、簡單でよい場合もあるが、軍隊の事をよく知らない人々には、全く通用しな
い事がある。よく相手を考へて言葉を選ばねばならぬ。

第四 つやをつけて文を生かす事

以上述べた通り用件がはつきりして簡單明瞭であり、平易であり、禮儀に缺くところがないな
らば、手紙の文として申し分ないわけだが、こゝに一つ考へなければならぬ事がある。それは、手
紙はお互に感情を持つた人と人との間に、とりかはされるものであるから、無味乾燥なものでなく

多少なりともつやのある、奥床しさのあるところが欲しいのである。

「一筆啓上火の用心、おせん泣かすな、馬肥せ」これは本多作左衛門が、戦地から留守宅に送つた有名な手紙だが、武人の面目と、その簡潔な點が遺憾なく發揮されて居るが、いつもこうばかりはゆかない場合がある。

時候の挨拶にしても「春暖の候」とだけ書くよりも、場合によりては「昨今梅の蕾もふくらみ鶯の初音の訪れも遠からざる事と存候」と書く方が、讀む人によつては感じのよい事もある。

又物事によつては、あからさまに書いて、相手の氣を悪くする様な事がある。「君はそんな事をしたら悪い」といふ様な場合に「そんな事をして世間の誤解を招くといけないから」といふ様に婉曲に書く事が必要な場合もある。然しいづれにしても美文好みになつて、虚飾や虚禮に流れる様な事は、避けなければならぬ。

第五 敬意を失しない様に注意する事

親しい友達などが訪れた時などは、「よく来た、まああがれ」、「相變らず元氣だな」で少しも無禮なところもなく、又不自然なところもなく、却つ友達に對する眞情が、あらはれて居てよい事もある。併しこれが手紙になると、案外誤解を招き易い事がある。それかというて親しい友達に「尊翰

拜誦仰せの如く」など、書くと變なものになるから、此の點も氣をつけねばならぬが、「親しき中に禮儀あり」、「禮儀の中に親しみあり」で、あまり亂暴粗雑でも失禮であり、あまり鄭重すぎても却つて相手によい感じを與へない、といふ事にもなるから、相手如何を考へ、相當の敬意を失しないだけの注意は必要である。

第六 書き終つたら必ず讀み返す事

手紙文を書き終つたら「何の爲めにこの手紙を書いたか」をもう一度頭に浮べ、受取つて讀む人の身になつて讀み返して見るがよい。

書き馴れた人でも意外の誤りを發見する事があるから、忙はしければ忙はしい程、讀み返して見ることが必要である。書き馴れない人は、是非讀み返す事を忘れない様に注意したい。

以上手紙文を作る爲めの一と通りの心得を述べたが、元々「文は人なり」で、いくら達文の人でも、心にもない事を麗々しく書いたのでは、人を感動させる事が出来るものでない。總て文は其人の眞情と誠心のあらはれでなければならぬ。たとへ文は下手でも誠心を込めて書いたならば、自分の意志は必ず先方に通ずるものである。

第三章 手紙文の様式

第一 手紙文の文體

現今世間では、普通の書翰文體、即ち「候文」といふものと、言文一致體のもの、即ち口語體といふものと、二通り用ひられて居る。近頃は小學校の教育でも候文は段々少なくなり、言文一致體の外國語の影響もあり、新聞雜誌などは、殆んど全部というてよい程、口語體を用ひる様になつたので、其の刺戟を受け、手紙の文も盛んに口語體を用ひる様になつた。

第二 候文と口語文

いま候文と口語文との二つの長短利害を比較して見ると、候文は、簡潔で氣品があり、禮儀正しい様にも感ぜられるが、一方形式に捉はれる處があり、又堅苦しい感じがある、その上漢字の素養がないと、充分自分の意志を先方に通ずる事がむづかしいと云ふ缺點もある。

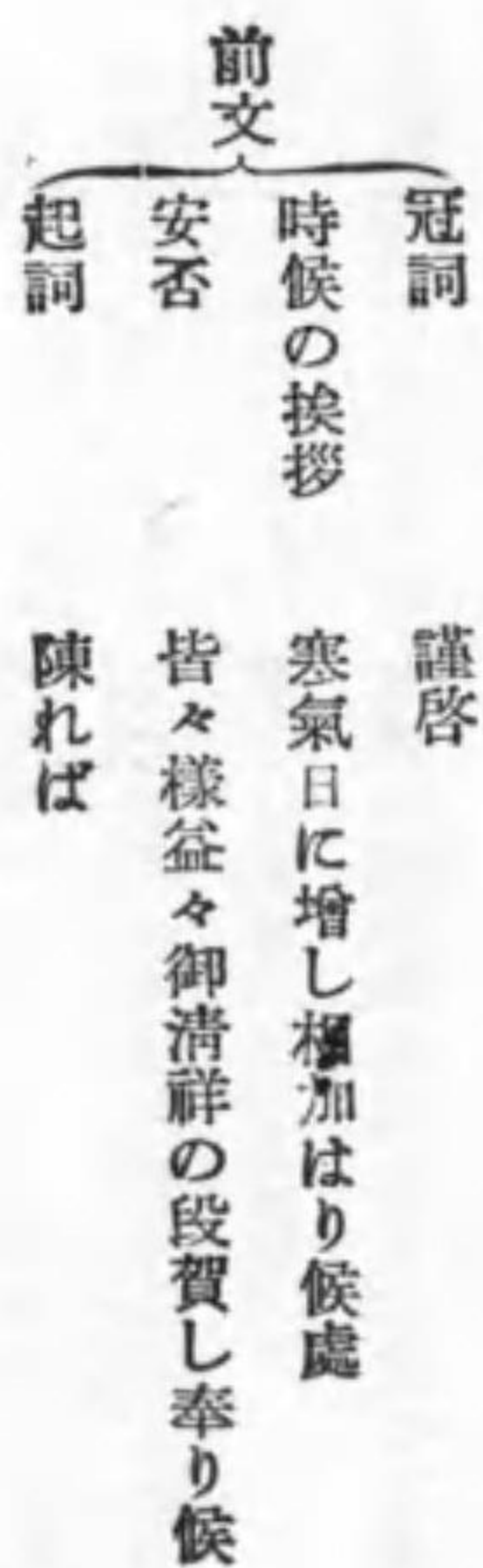
口語文は言文一致體であるから、自分の意志をあらはすにも、すらくと話しをする様に書き下す事が出来、文章は書きよいが、一方冗漫に流れ易く、親しみはあるが氣品に乏しい様な感じもする。然らば手紙の文は、いづれの文體を選ぶべきかと云ふ事になるが、要は相手と用件により、右の

利害得失を考へて選擇するより外はない。將來は候文が追々少なくなつて口語文が多くなるだらうが、現在の社會では、やはり物事によつては候文を全く書かないと云ふわけにはいかないから、一通りの心得は必要である。

第四章 手紙文の組立て方

第一 候文

候文の手紙では、現在世間に慣用されて居る形式によるのが、先づ無難であり又之を綴る捷徑である。それで一通り此の形式を頭に入れて置く方が、便利であるから、正式ともいふべき形を、具體的に現して、候文は如何に組立てらるべきかといふ事を示さう。



主文

小生入營に際しては種々御配慮に預り且遠路わさく御見送りを辱ふし誠に有り難く御禮申上候、本日無事入隊表記の中隊に編入せられ候間乍憚御休神被下度候

末文

先は御禮旁御通知迄斯の如くに御座候
敬具

一月十一日

太田清三

後附

日附
署名
宛名
(脇附)
小田幸二様
侍 史

添書(又は追て書)

御令兄様の御住所御序の節御一報被下度願上候

右の例に掲げた様に、手紙の文は大體前文、主文、末文、後附、添書などから成り立つて居るものである。

前文は先づ挨拶であつて、拜啓とか、返事ならば復啓とかの冠詞を書き、次にその折々の時候の挨拶を書く。その次に先方の安泰を祝ふか、又は安否を問ふ事もある。場合によつて自分の方の安

否を書き加へて、先方の安心を乞ふ事もある。それから起詞は愈々主文に入るのに、そのつながりに陳れば、扱てなど、書く、これ迄を前文といふ。

主文(本文ともいふ)は手紙の本体であつて、用件によつて種々に變化することは勿論だが、これに最も力を入れて、はつきり判る様に書かなければならぬ。

末文は主文の用件を一括して、簡単にしめくゝりをつけるものである。

後附は日附、署名、宛名、脇附などから成る。

添書は主文中に書き洩した様な事を餘白につけ加へるので、一二行ですまसानければならぬ。本文より添書が長くなる様では體裁のよいものでなく、こんな時には寧ろ書き直すべきである。

以上正式の手紙の組立に就て述べたが、必ずしもこれによらねばならないといふのでない事は、前に述べた通りである。それでこゝに略式の手紙に就て述べる。

略式の候文 急ぎの時とか、最も親しい間柄であるとか、会社の用などでは、略式の手紙文を使ふ事が屢々ある。たとへば

御申越の軍人讀本本日發送致置候間御受納相成度候

これなどは前文も末文も省いて、いきなり主文の用件だけを、簡単に書いたものである。

第二 口語文

口語體の手紙文は、大體前に述べた候文の組立てと、同一様式で差支ない。然し口語文は、形式とか慣用語とかに捉はれないで、自由に思ふ存分に書き下す處に特長があるのだから。實感、眞情を充分發露する様に書いた方がよい。

それから口語文で敬意を表はす場合に、候文ならば「參上致すべく候」と書けば參上致しますと何人にもこれで差支ないが、口語文では「參上致します」「行きます」「行く」など、幾様にも書けるものであるから、相手に敬意を表はす程度によつて、これを使ひわけなければならぬ。

第三 候文と口語文との語句の對照

文章體のものを、候文といふ位に、候文では候といふ字を多く使ひ、又それだけ重い役目があるのであるから、候の使ひ分けをよく心得て置かねばならぬ。

それで候文で書く語の主なるものに就て、口語と比較して示さう。

口語

ます(ました)

候。御座候。

ました、

候ひき。候ひし。

ませう

候はん。べく候。

ますから(ましたから)

候間。候につき。候故。

ますそうで(ましたそうで)

候由。候との事。候趣。

ますが(ましたが)

候處。

ますから(ですから)

候へば。

ましたら(ませうなら)

候はば。

まして(ませうとも)

候ふとも。

ますか(ですか)

候や。候か。

ましたか

候ひしや。

ますまい

まじく候。

ますまいか

まじく候や。

ますのに(ましたのに)

候ものを。

なほ候といふ字に就て注意しなければならぬ事は、候は、時の關係が明かでない、例へば「參り申候」といふのは、「參ります」「參りました」兩方の意味にとれる。これ等は使ふにしても、讀む

にしても、何れも前後の文章の続き具合を見て、判断しなければならぬ。

第五章 手紙文の書き方

手紙としては普通の封書と「はがき」の二通りであるが、封書にしても従來の日本式の巻紙と封筒の筒があり、洋式の角封筒に便箋（書簡箋）を用いたものもある。

又「はがき」にしても、普通の「はがき」があり、往復はがき、繪はがき、封緘はがきなどがある。さて此の中のどれを使ふべきかといふ問題だが、之れには別にきまつた区分はない、相手、用件、禮儀などを考慮して、適宜選擇するより仕方がないが、身分の上の人とか、儀式ばつた處へ出す時には、成るべく日本式の封書がよい。其他の手紙には、洋式のもものが便利である。はがきは同輩の間とか、簡単な用件などに用ひ、なるべく身分の上の人には用ひぬがよい。要するにこれは手紙文の長い短いだけではきめられぬ問題である。

第一 封書の書き方

一 日本式封書の書き方

用紙 巻紙を用ひるのが普通である。殊に身分の高い人や慶弔などの手紙には今でも奉書を用ひる。

紙の色合は白いのがよす。

筆 墨

巻紙には筆で書いて「インク」は使はぬがよい。巻紙に鉛筆の走り書などは最も不體裁である。墨は濃くすつて、一つ手紙文の中に濃い處と、淡い處とない様にしなければならぬ。梅状などは稍淡くするのが例である。赤や朱などは用ひぬがよい。

イ 前後の空け方

巻紙に認めるとき、昔は前三寸六分、後一寸八分空けるのを正式としたが、別にきまりはないから、前三寸位（約十センチ）後一寸五分位（約五センチ）空けたらよい。

ロ 天地の空け方

昔は儀式の手紙は、天を一字、地を二字空けるのが正式であつたが、今は天を一字位地を其の半分位空けるのを普通とされて居る。

ハ 字の大きさと行間の空け方

字はあまり大きいのもあまり小さいのもよくない。先づ五分から八分位が適當である。行と行との間は昔は九分がよいとされたが、今では字の大きさの半部位空けるのが適當だらう。

二 字 體

普通の手紙では先づ読み易い程度の行書がよい。草書もよいが、崩し方によつては読みにくくなるから、注意しなければならぬ。特に儀式ばつた時は楷書がよい。

ホ 假名

手紙の字が行書か草書であれば、平假名の方がうつりがよい。

へ 認め方の注意

御、貴、奉、尊などの敬語は、なるべく行の終りに書かない様にする。候、間、由、旨、趣などの字は、行の頭に書かぬ様にする。もし行の終りに入りきれない時には、行から一寸左下にはづして書いてもよい。

御座候、有之候、相成候などが行の終りに来る時には、字を少し小さくしてもよいから、次の行に分れない様にするがよい。

又二つに切れては具合の悪いもの、たとへば人名、地名、熟語の様に連続したものは、なるべく一行に書く様にする。殊に人名は切れない様に気をつけなければならぬ。其の外数字や金額などもなるべく切れない方がよい。

假名は成るべく行の頭に出さない様にする。

頓首、敬具などの結びの語は、末文が行一ばいの時は次の行の下に、末文に餘白があれば、其の行の下に書く様にする。

ト 署名の書き方

自分の名は月日の下に書くのが適當である。字の大きさは月日より稍々大きく書いた方がよい。連名の場合には一般に宛名に近い方を上位とする。此の場合には月日は連名の中央上がよい。

月 日

山野二等兵
川野一等兵
田野上等兵

上野曹長殿

チ 宛名の書き方

宛名は月日の頭を標準にして稍々高く、字の大きさは署名よりは稍々大きい方がよい。連名の場合には、署名と反對に上の人を初めに書くがよい。

月 日

上田 大尉殿

下田 中尉殿

中田 少尉殿

山田 軍曹

宛名署名の書き方の注意

- 一、最も普通なのは宛名、署名兩方共姓名を書く事である。
- 二、親密の間又は稍々尊敬の場合は宛名は姓、署名は名だけ書く。
- 三、最も親密の間か、少しく目下の時は兩方共名のみを書く。
- 四、目下には宛名に名、署名に姓だけを書く。
- 五、父母兄弟姉妹の間では、父より、姉よりなど、書いてもよい。

リ 添へ書（追て書）の書き方

添書は宛名よりも少しく下げて本文よりは稍小さく書く。

又 脇附の書き方

脇附は宛名の左下に殿、様等の尊稱と並べて稍小さく書く。

ル 巻紙の巻き方と封じ方

巻紙は文字の書いた方を内側にして、宛名の處は折り目にならぬ様にすがよい。そして終りの方から初めの方に向ひ封筒に入れるのに適當の幅に巻く。之れを封筒に納める時、逆さまにならぬ様、氣をつけなければならぬ。

ヲ 封筒の書き方と封の書き方

封筒は儀式とか改まつた場合、又は身分の高い人に出す時は、白色がよい。その他は色のついたものでも差支ない。

封筒の表面には、先方の住所姓名を、字體明瞭に書かねばならぬ。それには楷書か行書がよい。封じ目には、緘、封、糊など種々あるが、緘、封位が穩かでない。

切手は封筒の表面の左上に貼附するのが普通である、故に住所宛名の書き方を加減した方がよい。切手は、曲つたり逆にならぬ様貼附する。

東京市赤坂區青山南町一丁目二十三番地

河田正彦様

親展

参
切
手
錢

埼玉縣浦和町百三十八番地

澤田武夫

緘

月
日

二 洋式便箋及封筒の書き方

便箋は多くは野も引いてあるし、天地、前後も取つてあるからこれに従つて書けばよい。幾枚にも互る様な時に、手紙文の都合で後附だけが別の紙に残る様な事があるが、体裁のよいものでない、それ故次の様な書き方をするのも一案だらう。

(第一行はあける)

月 日

原 正 次 郎

山 井 正 吉 様

謹啓、

洋式のものには「インク」が適當である。便箋に「インク」で書いた時は封筒も「インク」で書いた方がよい。

洋式封筒の書き方は日本式の準じて書けばよい。便箋を封筒に納める時は体裁よく納まる様に折り方に気をつけねばならぬ。

第二 はがきの書き方

一 普通はがきの書き方

はがきは略式のものであるから儀式ばつた場合や身分の上の人には、成るべく用ひない方がよい。はがきの文は最も簡潔でなくてはならない。それが爲めには、初めにどの位の長さになるかを考へ、丁度はがきの全面に、

體裁よく收まる様に書く事が必要である。初めの方を大きい字で書いて、後の方が段々小さくなつて行くのや、あまり小さな字で書いた爲めに、後の方が半分以上も餘白になつて居るなどは、何れも體裁のよいものでない。適當な餘白がある

例一の方き書のきがは

謹啓 小生入營に際しては一方ならぬ御配慮に預り難有く御禮申上候本日無事入隊表記の中隊に編入せられ候間乍憚御休神下され度候先は御通知旁御禮申上度如斯に御座候

敬具

一月十一日

き が は 便 郵

東京市牛込區原町一丁目十番地

山野三郎様

静岡市歩兵第三十四聯隊
第一中隊

川野五郎

のが適當だ。繪はがきには表の面を二分する線が横に引いてあつて、通信文が書ける様になつて居るから、そこに通信文を書いて、上の方に宛名や自分の名を書けばよい。通信文は其の繪に關係ある様な、即ち其の繪を生かす様な文を、簡潔に書くと一層面白味、風流味が出て来るものである。

ときには、月日住所姓名などを書いてもよい。それからはがきに親展など、書いてはいけない。

二 繪はがきの書き方

繪はがきの裏面の繪や、寫眞の方には、成るべく通信文を書かないで、先方が充分其の繪なり、寫眞なりを觀賞出来る様にしてやる

千葉市本町一丁目
五番地

郵便はかき

大野緑郎君

水戸にて

切手

小原生

今日は強行軍十三里
で水戸に來た、おぼ
ろ月を幸に水戸公園
を散歩した、流石に
水戸公園だけある、
梅は半開の見頃だ。

月 日

三 往復はがきの書き方

往復はがきは、返事をして貰ひたいが、先方にはがき代を出させては氣の毒だとか、或は會合に出席の有無を確かめるとかいふときに用ひる。

往復はがきは、往信と返信と二枚續きになつて居るから、發信者は往信の方にだけ書くのであつ

て、普通のはがきの書き方でよい。

返事を出す人の手数をはぶく爲めに、當方の住所宛名を書いて置くか、印刷して置く事がある。此の場合には受信人の氏名には敬稱を附けないで何々行、又は何々宛とする。此のはがきを受け取つた人は行、宛といふ字を消して殿、様などゝ書いて出すのが禮である（第二篇の八参照）。

四 封緘はがきの書き方

封緘はがきは三錢で、はがきの二倍以上の通信文を書く事が出来るのみならず、封筒もいらなから旅行などには便利である。それ故はがきに書ききれない用件とか、はがきでは他人に見られて都合が悪いといふ時に利用される。通信文は普通の手紙の文でよい。

封緘はがきもはがきと同様に、略式のものであるから、身分の高い人とか、儀式ばつた時には使はない方がよい。

封緘はがきの封じ目には封、緘などは書かないで、そこに日附などを書いて、之を兼ねてしまふ方がよい。

第六章 手紙文の用語例

手紙文の正文は、用件によつて種々に變化するから、それ／＼工夫を要するが、其の他の用語は大體慣例があるから、之れを一通り心得て置けば、手紙文を作る上に非常な便利を得、努力の大半を節約する事が出来るものである。

第一 冠 詞 (起筆用語ともいふ)

一 送信の場合

謹啓、拜啓、恭啓、肅啓、謹呈、拜呈、寸簡拜呈。

一筆啓上仕候、手簡謹呈仕候、一筆申上候、寸楮拜呈仕候。

前文を省略する場合には、冠省、前略、前文御免下され度候。

前文御仁恕下され度候、前文御宥恕下され度候。

二 返信の場合

拜復、復啓、復呈、拜答、玉書拜誦仕り候、玉章拜讀仕り候、御懇書の趣拜承仕り候、芳書難有拜誦致候、御來書の旨拜承仕候。

第二 時候挨拶の用語

時候の挨拶は慣用語が澤山あるが、よく其の時候と適應したものを選ばねばならぬ。そして時候見舞などには慣用語だけでなく、つやをつけて文を生かす様に氣を付けるべきだ。

一月 (嚴冬の候で睦月ともいふ)

嚴寒の候、酷寒の砌り、酷寒の折柄、寒氣凜烈の候

寒氣厳しく候處、朔風膚を劈くばかりに候、立春も間近く相成候

二月 (晩冬の候で如月ともいふ、初旬に寒明けとなる)

餘寒尙凌ぎ難く候處、餘寒去り難く候處、餘寒殊のほか厳しく、立春とは名のみ寒氣未だ去らず、立春の聲に梅の蕾もふくらみ申候

三月 (初春の候で彌生ともいふ)

春寒頓にうすらぎ、春とは云へど寒さ猶去らず、春寒料峭の候、日に増し春めき來り鳥の聲も何となし長閑に覺え候、逐日春暖相催候處、一雨ごとに春めき來り候

四月 (仲春の候で卯月ともいふ)

春暖の候、日増に暖氣相加はり候處、春色殊の外麗しく

折角の花時雨の多いのには閉口致居候、春風駘蕩の候

五月 (晩春半月ともいふ)

暮春の候、輕暑の候、催暑の候、新緑したるばかりに候
新緑の候、更衣の節と相成候處

六月 (初夏の候で水無月ともいふ)

新緑濃かなる候、梅雨の候、梅雨に入りてより日毎に鬱陶しき天氣相續き候處、薄暑の砌、逐日
暑氣相加はり候處

七月 (仲夏から盛夏の候で文月ともいふ)

酷暑の砌、極暑の候、炎暑凌ぎ難く候處、炎威赫灼の候、酷暑堪へ難く候處、逐日暑氣相加はり
八月 (盛夏から晩夏の候で葉月ともいふ)

残暑とは申しながら却つて暑氣厳しく、炎威猶烈しく、残暑尙酷しく候處、土用明けの暑一入嚴
しく

九月 (初秋の候で長月ともいふ)

新秋の候、初秋の候、昨今漸く餘炎を收め候、朝夕は餘程凌ぎよく相成候、朝夕薄冷を覺え申候

秋色漸く相催し候

樹の葉のそよぎにも秋の訪づれを覺え申候

十月 (仲秋の候で神無月ともいふ)

秋冷の候、天高く馬肥ゆるの候、冷氣相募り候處、燈火親しむの候と相成候處、虫の音繁く相成
候處

十一月 (晩秋の候で霜月ともいふ)

晩秋の候、日増に寒さに相向ひ候處、秋氣愈深く相成候處
向寒の砌り、寒さ日に加はり候處、山の紅葉も色あざやかに相成候處

十二月 (初冬の候で師走ともいふ)

初冬の候、寒氣日に増し加り候處、年内も押つまり申候、年末多忙の折柄、餘日も少なく相成候、
歳末御多忙の折柄

第三 安否に関する用語

安否には先方の安泰を祝福するのと、安否を伺ふのと二様あり、又自己の安否を先方に通じて安
心を乞ふといふのもある。

一 先方の無事を祝福する用語
皆々様益々御清榮の段奉大賀候

貴兄益々御精武の段慶賀の至りに奉存候

貴家御揃ひ益々御多祥の段恐悦至極に奉存候

益々御健勝軍務御精勵の趣欣賀の至りに奉存候

御一統様いよ／＼御清福の段大慶の至りに奉存候

其の他、御清適、御清穆、御安泰、御多祥、御勇勝

二 先方の安否を問ふ用語

其の後如何に御暮しなされ候哉

昨今の炎暑御障りもあらせられず候哉

御病氣其の後経過如何かと御案じ申居候

御動靜御洩し下され度候

御別條無之候哉

三 自分の無事を知らせる用語

之れは先方の安泰を祝福するか、又は先方の安否を尋ねた其の後に書くべきもので、特に親しい間柄でもなければ、略しても差支ない。

降つて私方一同無異消光罷在候間乍憚御安心下され度候

拙宅一同無事消光致居候間乍他事御休神被下度候

御蔭様にて當方無異軍務に従事致居候間御放慮下され度候

私事恙なく元氣に通學致し居候間御心配下さるまじく候

其他御安意、御安堵、御省慮、御放念

第四 疎遠を謝する用語

手紙の前文の中には、時候に關する挨拶、安否に關する挨拶などの外に、「久しく御無沙汰致しました」といふ様な文句を書く必要な場合もある。たとへば「其の後は御無音に打過ぎ申譯無之候、皆々様益々、、、」といふ如きである。

存外の御疎遠恐縮の至りに存じ候

久しく御無音に打過ぎ誠に相濟み申さず候

暫く御無沙汰仕り御詫び申上候

第五 謝禮の用語

過日は御珍しき品御送り下され難有く御禮申上候

種々御配慮下され御芳情感謝の至りに御座候
御高慮の程深く感銘罷在候
其他、多謝、拜謝、深謝、萬謝、御厚禮

第六 謝罪の用語

何卒御許したまはり度候
御海容下され度候
幾重にも御詫び申上候

御仁免の程願上候
御宥恕下され度候
其他御寛容、御容赦、御仁恕、御許容

第七 物を送る用語

粗品ながら呈上仕候間御笑納下され度候
御禮のしるし迄に奉呈仕り候間御受納下され度候
別送の果物進上仕候間御笑味下され度候
其他、献上、拜送仕り候、御目かけ申度、高覽に供し度
御查收、御吐留、御笑留

第八 案内の用語

御臨席の榮を賜り度候
午後一時迄に御來車下され度待上候
何卒御枉駕被下度候
其他、御入來、御臨場、御光來、御來駕、御枉車

第九 參上の用語

午後三時迄に參上仕るべく候
昨日參堂の節は種々御配慮に預り難有く御禮申上候
早速御伺ひ申上べく候
其他、拜趨、參邸、伺候

第十 死去の用語

午前九時死去致候に付御通知申上候
御逝去遊ばされ候由謹で御悔み申上候
御他界あらせられ候趣御愁傷の程御察し申上候
其他、薨去、卒去、長逝、不歸の客

第十一 末文の用語

末文は本文に書いた用件の要領の締め括りをつけ、最後の挨拶をするのであるが、種々の書き方がある。

一 普通の結び方

右御通知申上候
右用件のみ
先は御見舞迄
御挨拶旁右迄
右御照會申上候

取り急ぎ御回答まで
先は近況御伺ひまで如斯くに御座候
取り敢へず御禮申上候
此の段貴意を得候
先は御祝ひ迄

二 傳言を依頼しての結び方

乍末筆兄上様にも宜しく御鳳聲願上候
皆々様に宜しく御傳聲下され度候

母上様にも然るべく御鶴聲被下度候
會員諸君に御披露下され度候

三 傳言を傳へての結び方

妻よりも宜しくと申出候

母よりもくれぐれも宜しくとの事に御座候
家内よりよろしく御禮申上げられ度と申出候

四 先方の自愛を祈りての結び方

時節柄御自愛專一に存じ上げ候
悪疫流行の折一層御攝養の程祈上候

時候不順の折一入御養生の程祈上候
終りに臨み御健康を祈り上げ候

五 依頼の文にて結び方

御多忙中恐縮ながら何分宜敷く御願申上候
何卒御高配たまはり度願上候

此の儀折り入つて懇願申上候

六 面會又は後便を期しての結び方

委細後便に譲る
近日中に拜趨萬端申上べく候

委曲拜眉の上萬々申上べく候

七 急ぎの時の結び方

亂筆御許し下され度候
いづれ落ち着き次第更めて申上べく候

亂文宜しく御判讀下され度候
右取り急ぎ申上候

八 結びの用語（留書ともいふ）

結びの語は最初の冠詞と相關聯して居るのであるから、兩々つり合ひのとれる様に選定しなければならぬ。

謹啓、、、、、匆々

取り急ぎ、、、、、謹言

これなどは不釣合であるから

謹啓、、、、、敬具

復啓、、、、、頓首

といふ風に書くがよい。

拜具、敬具、以上、不備、不一、頓首、匆々不一

謹言、再拜、恐惶謹言

九 追て書きの用語

追伸、追啓、二伸、追て、追白

十 後付の用語

後附の中で敬稱と脇附で普通用ゐられるものは左の通りである。

敬稱用語

閣下（陸海軍將官文官の勅任官以上其他有爵者等に）

殿（上下に對し廣く用ゐられる、公用文書では總て之を用ふ）

様（一般に最も廣く用ゐられる）

兄（先輩又は朋友の間に用ふ）

此の外大兄、賢兄、雅兄、仁兄、學兄なども用ゐられる。

君（同輩又は後輩に）

どの（目下の者に）

尊臺（長上の人に）

先生（師家に）

脇附用語

脇附は宛名の次に書くものと、封筒に書くものと二通りある。

書中に用ふるもの

執事、侍史 身分の高い人に

臺下

位高き文官に

麾下 位高き武官に

猊下

高德の僧侶に

函丈

師家に

座下

同輩に

此の外侍曹、楮右、楮下、硯北なども用ゐられる

兄	子	妻	母	父	
自分 私	私 正夫 (名)	私 此方	私 母	自分 父	自分で云ふとき
兄上様 御兄上様	其許 御身	其許 御身	母上様 御母上様	父上様 御父上様	自分のに云ふとき
兄 家兄	忤、愚息、娘 豚兒、長女、 次女	妻、家内 荆妻	母 老母 (亡母)	父 老父 (亡父)	自分のを他人に 云ふとき
御兄上様 御令兄様	御子様、御嬢様 御子息様、御令嬢様 御令息様、御息女様	御奥様、令夫人、御令室様 御令閨様	御母上様、御北堂様 御母君	御父上様、御尊父様 尊大人	先方のを云ふとき

膝下 祖父母、父母、伯叔父母に 御許 姉妹等に
 数人若くは團體に對して各位又は御中の尊稱を附けた時は、別に脇附を記さない。
 封筒に用ふるもの
 平信、平安 親しい間柄で異状なき場合
 親展、直披 他見を憚かる場合
 至急、急用 急速を要する場合
 請貴答、煩貴酬 返事を要するとき
 貴酬、御返事 返事に
 託幸便 人に託して送るとき
 原稿在中 又は寫真在中など

十一 自他の稱呼

これは手紙文の中では大切なものの一つであつて、其區別はかなり複雑だが、敬語の一種であるから、よく氣を付けなければならぬ。

祖父母、伯父伯母、叔父叔母の例によればよい	住所	居宅	友人	先生	妹	弟	姉
			小生、僕 迂生、野生	自分、予	私	私	私 姉
			君、貴兄、貴君 貴下、大兄	先生、教官殿	御身	御身	姉上 姉上様
	本縣 當村、本市	拙宅、私宅 弊屋、當社 當隊	友人、朋友 學友、親友	吾師	妹、愚妹	弟、舍弟、愚弟	姉
	貴地方 御地、錦地、貴村	貴家、高堂、貴宅 貴社、御校、貴隊	御友達、御良友 御學友、御友人	何先生、何教官殿	御令妹様、御賢妹様	御令弟様、御弟様	御姉上様 御令姉様

十二 忌言葉

吉凶共に忌言葉といふて、或る種の言葉を用ひない慣習がある。之れは單なる慣習又は迷信から來て居るらしく、別に氣にしない人もあるが、又厭がる人も相當あるから、成るべく使はない方がよい。

婚禮の忌言葉

結婚は二度も三度もするものでないといふところから「又々」「且つ又」「返すく」「重ねて」「追て」などは通常用ひない。又「目出度」といふ字の中に、「出」があるからいけないといふ人もある、その時は「愛で度」とするか、假名で「めでたく」とするがよい。

凶事の忌言葉

凶事で先方は悲嘆して居るのであるから「又々」「重ねく」「尙又」「追つて」「再々」「再弔文には用事などを書くべきではない。又此等の手紙には追て書（添書）はつけない方がよい。

第二編 手紙の文例

此の文例は、軍人諸君が入營から除隊までの、兵營生活中に、必要だと思はれる手紙と、青年諸君が、青年團員または青年訓練所生徒等として、斯んな手紙を書く場合が多からうと、推測して書いたものである。

文例といふものは、洋服でいふと既製品のやうなもので、誰にでも向くが、そのかはり誰にでもびたりと合ふといふわけにはゆかぬ。手紙はその時々によつて、事情も違へば用件も違ふ。であるから諸君はその事情、用件といふ寸法にあてはめ、うまく直して活用されなければならぬ。

なほ諸君は將來國家の中堅として、社會に活動せられるのであるから、その時の役にも立つ様に一般的な手紙の文例をも書き加へておいた。

一 入營に關するもの

護國の重任を双肩に擔つて入營するといふ事は、日本男子としての本懐、欣喜之に過ぐるものがあるまい。であるから、これに關聯した文は、男らしい、活氣の横溢した、歡喜に満ちた氣分が、

充分あらはれなければならぬ。これと同時に入營に就ては、一家一門の人は勿論の事、町村の關係者、訓練所、在郷軍人分會なども、それ／＼配慮されて居る事であるから、入營の上は相當謝意を表明し、又今後の指導、後援を乞ふのは當然の事である。

- 1 入營を父母に報ず
- 2 入營を親戚に報ず
- 3 入營を村長に報ず
- 4 入營を青年團に報ず
- 5 入營を訓練所の舊師に報ず
- 6 入營を郷里の友に報ず
- 7 一般の入營見送人に對する禮狀
- 8 二年兵から入營する友の父へ
- 9 在營の友に入營確定を報じ指導を乞ふ
- 10 右返事
- 11 近く入營する友へ
- 12 右返事
- 13 徴兵検査合格を在營中の友へ報ず
- 14 右返事
- 15 徴兵検査合格を親戚に報ず

入營を父母に報ず

伯父様が御歸りになつて既に御承知でせうが、今日無事入營致しましたから御安心下さい。私の長い間の希望が叶つて、今日初めてほん物の軍服を着けた時は、思はず嬉しさがこみ上げ、伯父様と

顔見合せてほゞえみました。今日からほんとうの軍人です。

中隊では幹部の方々や二年兵の人達が、何から何まで、至れり盡せりの御世話をして下さいますから、私も何等の不安も不自由もありません。決して御心配下さらぬ様御願ひ致します。殊更母上は御心配なさる方ですから、父上から宜しく御傳へ願ひます。

伯父様が初めから終まで附添つて居て下さいましたので、非常に好都合でした。兵事係の佐藤さんにも大變御世話になりましたから、父上からも御禮を申し上げて置いて下さい。その内詳しく御知らせ致しますが、取り敢へず御一報まで。

入營を親戚に報ず

私事昨日無事入隊致しましたから御安心下さい。入營の爲め出發の際は、種々御厚情に預り、殊に過分の御餞別まで頂戴致し、誠に有り難く厚く御禮申し上げます。

隊内の詳しい事はまだ判りませんが、中隊長殿初め幹部の方々が、萬端御世話して下さいので、少しも不安はありません。それに義次さんも同中隊に居りますので、非常に心強うございます。皆様御心配下さらぬ様御願ひ致します。

何れそのうち詳しい御知らせを致します。

入營を村長に報ず

謹啓益々御清福の段奉賀候。

私儀入營出發の際は、種々御懇情に預り、殊に御多忙中にも拘らず、送別の宴を御開き下され且つ激励の御言葉まで賜はり、千萬忝けなく厚く御禮申上候。御蔭を以て昨日無事入隊仕候に付、乍憚御放慮下され度候。御教諭を深く肝銘し赤誠奉公の實を擧げ申すべく候。

先は御禮申上度如斯に御座候。 頓首

入營を兩年團に報ず

小生入營に際しては、團長殿並に團員各位より、種々御配慮を蒙りましたのみならず、盛大なる送別會を御催し下され、過分なる御詞まで賜はり、御芳志深く御禮申し上げます。御蔭様にて途中無恙昨日入營致しましたから御休心下さい。此の上は粉骨碎身、軍人の本分を盡し、各位の御期待に背かざる様致す決心でございます。今後倍舊の御指導と、御厚誼の程御願ひ致します。

一々御禮状差上ぐべきですが、入營匆々何かと取りまぎれてゐますので、甚だ失禮ですが團長殿より、團員各位に宜しく御鳳聲下さる様、御願ひ申し上げます。

先は御禮旁御通知迄。

入營を訓練所の舊師に報ず

先生、出發の際は御忙はしい中を態々御見送り下され、激勵の御言葉まで頂き、何とも御禮の申上げ様も御座りませぬ。

昨日無事入營表記の中隊に編入されましたから御安心下さい。

兵營は、訓練所に居りました時、先生方につれられて見學した事がありますので、何等の不安もなく營門をくぐりました。中隊長殿及幹部の方々が、極めて親切に御世話下さるので、益々安心しました。昨日初めて軍服を着た時は、年來の宿望が叶つて何とも言へない嬉しさを感じました。又今日の入隊式に於て、光輝赫々たる軍旗の下で、軍人に賜はつた勅諭を拜承し、兩陛下の御眞影を拜した時は、一入心の緊張を覚え、日本男兒に生れた誇りをしみ／＼感じました。

此の上は及ぶ限りの力を盡して軍務に精進し、軍人たるの本分を盡し、先生の平素の御鴻恩に報いたいと存じます。

先は御禮旁入營状況の御報まで。

入營を郷里の友に報ず

僕の入營に就ては色々御世話になつてありがたう。

兵營の事は、萬事指導員の先生から承つては居たし、昨年秋此の隊に宿泊した事もあつたから、少しの不安もなく營門をくぐつたよ。中隊の幹部たちは昨年こゝへ來た時にも、世上の噂と違つて、よくあんなに注意が行き届くものだと感じたが、今度實際入隊して見て、其の親切さが全く自分の子をいたはると同様で、勿體ない様な氣がする。初めてほん物の軍服を着た、長い間のあこがれの軍服を。日本男兒と生れた甲斐があつた。これからしつかり頑張るよ。そのうちだん／＼營内の様子を詳しく御知らせする、御禮まで。

一般の入營見送り人に對する禮狀

謹啓徳二儀入營の爲め出發の際は、御繁忙中にも拘らずわざわざ御見送り下され誠に有り難く厚く御禮申上候。

御蔭を以て途中無事、昨日入營、表記の中隊に編入せられ候間、乍他事御休神下され度候先は取り敢へず右御通知旁御禮申上度如斯候。 敬具

二年兵から入營する友の父へ

日に増し寒さ相加はりますが、皆様御變りなく大慶の至りに存じます。承れば令息光一様には愈々御入營の事に確定致されし趣き、邦家の爲め慶賀至極に存じ奉ります。

然も當隊に御入營の由、小生に取りても非常に力強さを感じ、只管御入營を御待ち申して居ります。光一様には常々是非共入營したしとの御希望でもあり體格、學力共申し分なく、御入營の曉には、目覺しい成績をお舉げになる事と期待して居ります。

光一様には其の中詳しく隊内の状況を御知らせ致しますが、何卒宜しく御鶴聲願ひます。先は入營御祝ひまで。

在營の友に入營確定を報じ指導を乞ふ

朝夕大變凌ぎよくなりました。貴兄には其の後御變りありませんか。

小生愈々貴兄の聯隊に入營する事に確定致しました。貴兄の後を追うての入營にて、今後何かと御指導を仰ぐことも多かるべく、何卒宜しく御引き廻しの程願ひ上げます。

就ては御多忙中甚だ恐縮ながら、入營に就ての心得、隊内の状況などを御暇の節御示し下さらば幸甚に存じます。

先は御知らせ旁々御願ひまで。

右返事

光二君 愈々入營の事に決定したそうだね、御目出度う。

然も僕の隊に入營されるとの事、僕は大に力強く感ずるよ。何も心配する事はない。僕も曾て未知の世界に入る様で、入營前あれこれと色々心配したが、全く案じるより生むが易いで、世間でいひふらされて居る軍隊の状況なるものが、誇張されて、苦しい事ばかりの様に人の耳にはいつて居るが、入營の當初から中隊長殿始め幹部から先輩の二年兵に至るまで、至れり盡せりの指導をして呉れるし、教練にしても極めて合理的で、學科にしても亦單純で、理解に苦しむ様な事はないから、君の體力と學力と、そして人格とを以てしたならば、優秀な成績を揚げる事疑ひなしだ。然し初めは何でも、時間できちん／＼ときまりよくやつて行くから、馴れない中は、始終落ち付かない様な氣もするが、馴れれば何ともない。却てきまりよく、我々が家に居た時のだらしなさを深く痛感する様になる。それから申すまでもないが、軍隊は戦ひに勝つ人々を作る處だから、戦闘をするための必要から、かなり苦しい演習もやる。これはやがて、何んな難局に處しても、苦境に立つても、不屈不撓、之を切り抜け得る様な人間を作り上げる基礎となるのだ。だから軍隊は一種の國民學校だよ。そこで先づ身體の健康が第一だから、今から此の點に充分注意してくれ給へ。それから編入される中隊がきまれば、中隊長殿から詳しい注意事項等を示される筈だから、其の注意を守つて入營するのが一番間違ひない。

君の入營期前に歸省が出来そうだから、何れ拜眉の上萬々申上げるが、取り敢ず右まで。匆々

近く入營する友へ

梅吉君 愈々入營期も切迫し、何かと忙はしいだろう。中隊もきまつたし、入營に就ての中隊からの注意書等も、到着したらうから、先づ安心だ。僕から改めて御注意申し上げる事もないが、昨年僕の入營の時は、其の前三、四日御馳走やら、送別會責めで腹をこわして、入營當初弱つたよ、それに睡眠不足ときてるからね、先方では好意を以て、大いに前途を祝福して呉れたのだから有りがたいが、餘程氣を附けないと僕の轍を踏む事になるから注意し給へ。

達者な元氣な身體で入營するのが何より幸福だからね。近く御目にかゝるのを楽しみに待つて居る。入營前夜は郡のものが一しよに、櫻町の立花屋に宿る様になつて居る筈だから、その夜御伺ひする。くれぐれも身體に氣を附けて呉れ給へ。

右返事

御手紙拜見、御厚情深く感謝する。御注意の數々必ず守つて元氣な身體で御目にかゝるから、安心して呉れ給へ。何んだか心がせくが君が居ると氣強い、別に心配はない。何れ近く御目にかゝるのを楽しんで居る。伯父が附添で行つて呉れる事になつた。取り急ぎ一筆御禮まで。

徴兵検査合格を在營中の友へ報ず

武夫君、僕今日徴兵検査は甲種で合格したよ。喜んで呉れ、徴兵醫官も、申し分ない體格だつてほめて居られた。もう、くじなんか引くもんか。君の軍服姿を見せられる度に、羨望に堪へなかつたが愈々僕も君にあやかつたよ。來年一月の入營が待ち遠しい、あこがれの軍服へ！ 今日ほんとは日本男兒に生れた誇りを満喫した。早速鎮守様に御禮詣りをした、おやち初め家内中大喜びだ。取り敢へず御知らせする。

右返事

信一君 合格だつて？ 君の體格では當然な事だらうが、何しろ萬歳だ。抽籤はしないつて、それでこそ日本男兒だ、だから日本の軍隊は強いのだ。君は無論、御尊父様始め皆様の御喜びの程御察し申し上げる。早く君の軍服姿を見たいものだね。

それにつけても大事な身體だ、大に自重し給へ。
今度の慰勞休暇には歸省してゆつくり話さう。御祝迄。

徴兵検査合格を親戚に報ず

伯父様 其の後は御無沙汰致しました。御變りもございませんか。

私事昨日の徴兵検査で、甲種合格でしたから御喜び下さい。
伯父様は習志野の騎兵でしたね、其の内御伺ひして、御在隊當時の御経験を承りたいと存じて居ります。

二年賀に關するもの

- 一 陽來復、新春の初めにあたり、新しい輝かしい希望を抱いて、お互に祝し合ひ、且つ久澗を叙し、將來の交誼を厚うする事は、社會生活上の自然であつて、敢て虚禮と排斥するのはあたらない。遠く離れて居る父母、兄弟、親戚、知己、朋友に、或は舊師や、恩顧ある人などに、賀状を呈するのは當然の事である。
- 年賀状は、通常最も簡単に祝意を表する形式を用ゐる場合が多いが、特に親しい間柄では形式に捉はれないで、新年の祝意なり希望なりを充分にあらはすやうな文の方がよい。如何なる形式で表はすにしても、賀状であるから、不吉な字句を遣はないやうに、氣を付けなければならぬ。
- 1 普通はがきに認める文例
 - 2 繪はがきに認める文例
 - 3 一般に對する年賀状
 - 4 同

- | | |
|-------------|-----------------|
| 5 同 | 6 同 返事 |
| 7 同 返事 | 8 父母に送る年賀状 |
| 9 村長に送る年賀状 | 10 訓練所の舊師に送る年賀状 |
| 11 友人に送る年賀状 | 12 除隊せる友に送る年賀状 |

年賀状

(一其) 例文るめ認にきがは通普

謹 賀 新 年

昭和何年元且

青森 歩兵第五聯隊第一中隊
雪野國三

年賀狀

普通はがきに認める文例（其二）

恭賀 新正

平素の御無音を謝し
併て將來の御厚誼を祈る

一月一日

千葉縣習志野
騎兵第十五聯隊第三中隊

馬田三郎

年賀狀

普通はがきに認める文例（其三）

賀 正

御武運長久を祈る

昭和何年一月一日

東京市牛込區寺町六〇

寺田時夫

年賀状

普通はがきに認める文例（其四）

喪中につき年末年始の禮
御遠慮申上候

昭和何年十二月二十日

東京市小石川區久堅町一番地

川崎正一

年賀状

普通はがきに認める文例（其五）

謹んで新年を賀す

早々賀状を賜はり有り難く御禮申上候
年末來九州地方に旅行政居り昨日漸く
歸宅致候延引ながら賀詞を呈し候

昭和何年一月十日

山形市香澄町
三三二

郵便はがき

武田六郎君

切手

新春を迎へて

兵營の窓から

兄の御健康と

御多幸を祈る

元旦

武内生

一般に對する年賀狀

謹んで新年の御祝申上候。先以つて貴家御一同様には、御機嫌よく御越年遊ばされ候段、大慶の至りに奉存候。降つて私方一同御蔭を以て無事馬齢を加へ申し候間御安心下され度候。

先は年始の祝詞まで此の如くに御座候。謹言

同

謹んで新春の御祝ひ申し上げます。皆々様には、御揃ひ目出度御加年遊ばされ大賀至極に存じ上げます。降つて拙宅一同御蔭様で無事越年致しましたから御安心下さい。先は新春の御祝ひまで。

同

謹んで新年を賀し奉ります。

客年中は種々御高庇を蒙りまして、誠に有がたうございました。何卒本年も相變らず御眷顧の程御願ひ申し上げます。

貴家御一統様の御幸福を祈り上げます。

同返事

早々賀狀を賜はり忝なく奉存候。

皆々様御機嫌よく御越年遊ばされ候趣恐悦至極に存候、客年中は私こそ御好意を辱ふし有り難く厚く御禮申上候、尙將來倍舊の御愛顧を奉願上候。

先は貴酬迄。

同

御はやばやと賀状を賜はりました、有りがたうございました。

皆様御變りもなく御越年遊ばされ、御目出度ございます。

平素の御無沙汰は私共こそ、何卒御許し下さいまして、本年も相變らず御厚誼の程、偏に御願ひ申し上げます。

先は御答禮まで。

父母に送る年賀状

あけまして御目出度うございます。

御両親様には御揃ひ御機嫌よく新春を迎へられ大賀至極に存じ上げます、私も至極達者で越年致しましたから御安心下さる。

本年は初めて御両親様の膝下をはなれて、兵營の御正月を迎へました。朝は屠蘇、雑煮の御馳走を頂戴してから、拜賀の式に列しました、流石に一入心身の緊張を覚えます。本年はしつかり勉強して、除隊の際には立派な成績で、錦を故郷に飾る事を期して居ります。

先は御祝まで。

村長に送る年賀状

新春の御慶目出度申納候。

舊年中は小生のみならず、留守宅の者まで一方ならぬ御配慮に預り誠に難有く御禮申上候。

私事も御蔭を以て無異越年致候。本年は一層軍務に精勵致し好成績を以て歸郷平素の御愛顧に報いん事を期し居り申候、何卒今後共宜しく御指導御援助を賜はり度奉懇願候。敬 白

訓練所の舊師に送る年賀状

先生 あけまして御目出度うございます。

舊年中は御懇切な御指導と、御鞭撻を賜はりました誠に有りがたうございました。

私も御蔭様で上等兵の肩章をつけて、兵營の春を迎へることが出来ました。軍隊生活もあますところ後一年となりました、大に奮勵努力し、立派な成績で歸郷して先生の平素の御厚志に酬ひたいと存じて居ります。どうか將來も倍舊の御指導をたまはります様御願ひ致します。

先は年頭の御祝詞まで。

友人に送る年賀状

新年御目出度う。

元氣旺盛又一つ馬齢を加へた。今年はお互に馬力を出してうんと働かうぢやないか。貴兄の御健康と御多祥とを祈る。

除隊せる友に送る年賀状

あけまして御目出度う。

今年はお家の方々と、のんびりした御正月を迎へられた事と御祝申し上げます、私も例の居蘇と雑煮で兵營の春を迎へました。これが兄と一しよだつたらと思ひ、あの頃を追想します。來年は一しよに村の御正月を迎へるのを楽しみに、本年もうんと勉強します。兄の御健康と御幸福を祈り上げます。

三 時候見舞に關するもの

時候見舞の文は、殊に其の時々の實際の時候を、最も適切に巧に書き表はす事と、其の時候に應じた見舞の氣分が、はつきり紙面に表はれて居るやうに、書き綴る事が必要である。已に餘寒の候となつて居るに拘らず、嚴寒の書き方をしてあつたり、新秋の候になつてるのに、酷暑の挨拶であ

つたりしたのでは、せつかく見舞狀を出す好意が、先方に届かぬ事になるから、是等の點を氣をつけないければならぬ。

- 1 兩親に送る寒中見舞
- 2 右 同
- 3 兩親の寒中見舞に對する返事
- 4 親戚に送る寒中見舞
- 5 在營の友へ送る寒中見舞
- 6 友よりの寒中見舞に對する返事
- 7 一般に送る寒中見舞
- 8 右 返事
- 9 歳末父母を見舞ふ
- 10 歳末友を見舞ふ
- 11 一般に送る暑中見舞
- 12 一般の暑中見舞に對する返事
- 13 兩親に送る暑中見舞
- 14 友に送る暑中見舞
- 15 他隊の友に送る暑中見舞
- 16 友よりの暑中見舞に對する返事
- 18 親戚に送る残暑見舞
- 19 演習地より友の暑中見舞に對する返事

兩親に送る寒中見舞

謹啓 流石に大寒の聲を聞いてから、めつきりお寒くなりました。御兩親様には、さぞかしお凌ぎがたき事でせうと、お案じ申し上げて居ります。私事は御蔭で風一つひかず、このころは營内の生

活にもすつかりなれて、至極達者で軍務に精勵致して居りますから御安心下さい。
どうぞ寒さの間だけでも、御無理をなさらずにお厭ひ下さい。
先は酷寒の候こゝに御見舞申上げます。 敬具

右 同

拜啓入寒以來一入凌ぎ難く候處、御兩親様には如何御起居遊ばされ候哉御伺ひ申上候。三郎事御蔭を以て至極健康に有之、昨今は漸く兵營の生活にもなれ、連日の教練に疲勞をも感ぜぬ程に相成候間、何卒御心配無之様願上候。

酷寒の折寒さをいとひの上、御機嫌よく御暮し遊ばさる様祈上候。

先は寒中御見舞迄如斯に御座候 敬具

兩親の寒中見舞に對する返事

父上様、母上様、日々の教練で、思ひながら寒中御見舞も差上げませんでしたのに、今日は御親切な御手紙を頂き恐縮に存じます。嚴寒の折にも拘らず、父上様には例年の喘息の御苦しみもなく、又母上様にも何の御障りもなく御暮しの由、何よりの事と存じ私も安心致しました。私事は益々壯健で、此の頃の連日の降雪にもめげず、軍務に勉勵致して居りますから、御安心下さい。

どうか寒さの間だけでも御無理をなさらずに、無事に冬を御越し遊ばさる様に御氣をつけ下さい。
先は御禮まで

親戚に送る寒中見舞

拜呈その後は御無沙汰致しまして申譯ありません。昨今は殊の外寒さが厳しい様ですが伯父様、伯母様初め皆様御變りありませんか。殊におばあ様には御老體のこと、何程か御凌ぎ難い事と御察し申して居ります。次に私事すつかり軍隊生活になれ、この頃の烈しい寒さにも負けないで、軍務に勉勵して居りますから御休神下さい。留守宅の方は始終御世話様になつて居るさうで、親達も非常に感謝して居ります、私からも厚く御禮申し上げます。では皆様寒さに御氣をつけ下さい。

先は御見舞まで。 敬具

在營の友へ送る寒中見舞

さすがに大寒だね。炬燵にもぐりこんでも寒い。然し積雪の中で日夜教練に精進してる君の上を思ふと、家に居て寒いなど言はれた義理ぢやない。御變りないだらうな。
何というても嚴寒だ。大に自重自愛して、邦家のために奮闘して呉れ給へ。僕も頑健だ。こんな寒さは吹き飛ばして、大に働くよ。母も此の冬は身體の具合は非常によい。

先は御見舞まで。

友よりの寒中見舞に對する返事

正二君 御手紙ありがたう。なるほど嚴寒だ。軍隊も寒いよ。だが軍装して整列すると、寒さなんか問題ぢやない、駈歩を三分もすると、何處かへふつとんでしまう。それに教練の間は教官初めみんなそりや真劍なんだからね、寒いなど、いうてる隙がないよ。それに今、酷寒零下三十度の滿洲で、奮戦してる戦友の上を思へば、内地に居ての寒さ位なんでもない。御厚志誠に感謝に堪へないが心配しないで呉れ、身體は文字通りに頑健だ。

御母様は今年は大變よいそうだね、ほんとに結構だ、が大事にして上げ給へ。
先は御禮まで。

一般に送る寒中見舞

拜啓時下嚴寒の砌り、貴家御一統様御障りもあらせられず候や御伺ひ申し上げ候、降つて小生儀御蔭様にて益々壯健に軍務に精進致し居り候間乍他事御放慮下され度候。寒氣日に増し相加はり候折柄御自愛專一に存上候。

先は寒中御見舞申上度斯の如くに御座候。頓首

右返事

拜復御鄭重なる御見舞に預り、誠にありがたく御禮申上候、仰せの通り本年は近年稀なる寒氣に候、それにも拘らず皆々様益々御健勝の由慶賀の至りに奉存候。降つて拙宅一同御高庇により、無異消光罷在候間乍憚御放念下され度候。

先は御禮申上度斯の如くに候。敬具

歳末父母を見舞ふ

愈々本年もおしつまつて参りました。御兩親様には歳末の御整理やら、御正月の準備で嘸かし御忙はしい事と御察し申して居ります。軍隊の暮は實に靜かです。こんな靜かな暮を迎へたのは初めてです。私もやつと一年を過し、御奉公の半ばを勤め得たと思ふと、心嬉しい處もあります。後一年、來年はうんと奮發して好成绩を擧げたいと存じて居ります。

こんな靜かな歳末で、御兩親様方の御忙はしさを思ふと、申し譯ない様な感じが致します。來年の暮には、家でしつかり働きますから、御辛棒願ひます。

では皆様御多幸な御正月を迎へて下さい。

歳末友を見舞ふ

愈々おしつまつたね、忙はしいだらう。御察しするよ。軍隊では豫定の教練も終り、大掃除も終り初年兵を迎へる準備も整ひ、あとは入營を待つばかり。一年間の決算を終つて、實に静かなのんびりした暮だ。こんなおきな暮は初めてだ。君、軍隊には年中行事と云ふものがあつて豫定を立て、其の豫定は萬難を排して、ぐんぐん實施して行くのだ。萬一事故でもあつて豫定通り出來ない事があれば、それこそ夜を日についても、實施しなければ止まないのだ。だから年末決算といふ時になると、きちんと早く算盤が合ふといふわけさ。これは軍隊ばかりでなく、お互に家に居て仕事をす

る時でも、大いに参考とすべき事だね。
つまりぬ理窟をならべたが、軍隊の歳末を迎へて感ありさ。呵々ではしつかり働いて、幸福なるべき昭和〇年を迎へて呉れ給へ。

一般に送る暑中見舞

拜啓炎暑殊の外酷しく候處御一同様には如何御凌ぎ遊ばされ候哉、御伺ひ申上候。降つて私儀至極勇健に、炎天下の教練に奮闘致し居り候間乍他事御休神下され度候。

先は暑中御見舞申上度斯の如くに御座候。敬具

一般の暑中見舞に對する返事

復啓芳翰有り難く拜見仕り候。農事御繁忙の折にもかゝはらずわさく御見舞下され千萬忝く厚く御禮申上候。

貴家御一同様には近年珍しき炎暑にも拘らず、御變りなく御送光の御趣慶賀至極に存じ奉り候。降つて野生儀御蔭を以て無異軍務に従事致し居り候間乍憚御放慮下され度候。

先は御見舞の御禮まで斯の如くに候。敬具

兩親に送る暑中見舞

連日やけつく様な暑さで、御兩親様には、さぞかし御凌ぎ難い事と御察し申し上げます。私事この炎暑の中でも、御蔭様で元氣よく軍務に従事致して居りますから、どうか御安心下さい。

軍隊もこの頃は午後は教練をも休み、毎日午睡の時間さへ與へられてゐる位ですから、決して御心配下さらぬ様、御願ひ申し上げます。御兩親様には御老體のこと、暑さのきびしい頃など特に御無理をなさらぬ様願ひます。

先は御見舞まで

友に送る暑中見舞

暑い、全く暑いね。いりつける様な蟬の聲を聞きながら、田の水が御湯の様にあつくつてゐる時の、

田の草取りも樂ぢやないだらう。御變りないだらうな。青々した練兵場の芝草も、此の頃ではすっかりよれ〜に、糸の様に細くなつて喘へいで居るよ。昨日迄三日間大隊の耐暑行軍に行つて来た。毎日やきつく様な炎天続きで、全く文字通りの流汗淋漓、ぬれ鼠のやうになつてあるいた。しかし落伍したものは一人もなかつた。これ位の暑さにへこたれては戦場に出る資格はなくなるよ。僕は元氣益々旺盛だ安心して呉れ給へ。

近頃訓練所の方はどんな様子かな、暑さの折大に自重自愛し給へ先は御見舞かた〜近況迄。匆々

他隊の友に送る暑中見舞

武一君 先日は、富士の裾野の射撃演習からの繪はがき、嬉しく拜見した。連日やきつくやうな暑さだね。相變らず元氣旺盛だらうな。僕の隊も今盛んに耐暑の演習をやつてる。その上等兵候補者としての特別教育があるから、寸暇なしといふ有様だ。だが例によつて元氣だけは益々盛んだ。十日に訓練所の伊藤先生が訪ねて下さつて、種々激勵の御言葉をいたゞいた。涙が出る程うれしかつた。そのうち君の隊にも御訪ねするといふて居られたよ。お互に大にやらうよ。身體を大事にし給へ、先は御見舞かた〜近況迄。

友よりの暑中見舞に對する返事

暑中御見舞ありがたう。此の暑さにもまけずに田畑に、養蠶に、夜を日について奮闘して居られる狀況、目に見える様で、流石は君だ。おとう様も御達者だそうで何よりだ。僕からよろしくと申し上げて呉れ給へ。僕も相變らず頑健、昨日迄房州海岸の游泳、漕艇演習に行つて居た。久しぶりに鏡に向つたら、自分ながら驚く様な眞黒けなので苦笑したよ、安心してくれ給へ。先は御禮まで。

演習地より友の暑中見舞に對する返事

御見舞こちらで拜見した。ありがたう。七日からこちらに来て、毎日富士の秀峰を眺めながら演習して居る。水はよし、朝夕は非常に涼しい。避暑に来てゐる様だ。相變らず元氣だ。二十日に歸隊する。

兄の御健康を祈る。

親戚に送る殘暑見舞

殘暑とは申しながら、昨今の暑氣は格別ですが、伯父様伯母様には御變りも御座いませんか、御伺ひ申し上げます。私宅の養蠶は本年は私が居りませんので手不足の處、伯父様伯母様の御骨折りで特別よく出來上りましたそうで、親ども、非常に感謝致して居ります。私からも厚く御禮申し上げ

ます。

私事は其後壯健で軍務に従事致して居りますから御休神下さい。

先は御見舞かたく御禮迄。尙孝一君にもよろしく御鳳聲下さい。

四 祝賀に關するもの

祝賀の文は、徹頭徹尾威勢のよい、發刺として歡喜滿悅の狀況が紙面に躍るやうな文がよい、殊に親しい間柄などでは尙更さうである。

一般に祝賀文には不吉な文字を使はないやうにする。殊に婚禮などの祝賀文は忌言葉に氣をつけるがよい。

- 1 轉任せる上官の進級を祝す
- 2 除隊後班長の進級を祝す
- 3 精勤章を附與せられたる友を祝ふ
- 4 友の上等兵進級を祝ふ
- 5 上等兵進級御祝ひに對する返事
- 6 友の就職を祝ふ
- 7 出産を祝ふ（一般に）
- 8 出産を祝ふ（親戚に）
- 9 出産を祝ふ（友人に）
- 10 友の入營を祝ふ

11 友の除隊を祝ふ

12 友の病氣全快を祝ふ

13 先輩の榮轉を祝ふ

14 友の訓練所卒業を祝ふ

轉任せる上官の進級を祝す

謹啓 大尉殿には過般參謀本部に、御榮轉遊ばされ尙此の度は少佐に御榮進の趣拜承、慶賀至極に奉存候、降つて小生其の後御在職中の御教訓を深く體して軍務に精勵致居候間乍他事御放慮下され度候。時下炎暑の砌り御自愛專一に祈上候。

先は御榮進を祝し、併せて御武運の益々長久ならん事を奉祈候。頓首

除隊後班長の進級を祝す

班長殿 除隊になつてから早半年たちました。思ひながらも、何時も仕事に追はれ、御無沙汰致して濟みません。班長殿には、此の度曹長に御進級の上、聯隊本部附に御榮轉の由、誠に御目出度うございます。謹んで御祝ひ申し上げます。

班の諸君から時々手紙をいただきますが、何時も班長殿の御消息を知らせて参りますので、在營當時御世話になつた事を追懐して居ります。私事頗る達者で家業に従事して居ります。銃を鍛へ更へただけで、在營當時の氣持で働いて居りますから御安心下さい。分會の集合には必ず出席致して居

ります。訓練所の方の御世話も致して居ります。
末筆ながらこゝに更めて班長殿の御健康と御武運長久を祈り上げます。
先は御祝ひかたく近況まで。

精勳章を附與せられたる友を祝ふ

義一兄 何時も元氣で何よりだ、今度精勳章を賜はつたそうだね。平素の至誠御奉公が報いられたわけだ。大いに祝ふよ。赤い山形の徽章をつけた君の得意や思ふべしだ。がそれだけ責任も重くなり、人目につく事になるから、大いに自重奮勵すべきだね。将来二本三本と増加して行く事疑ひなしだ。

烈暑の候だ大いに君の御健康を祈る

友の上等兵進級を祝ふ

愈々一躍肩の星が三つになつたつてね。御目出度う。君ばかりぢやない、僕等も肩身が広い様な心持がする、しつかりやれ。今日君の家を訪ねたら、お父さん初めみんな大喜びだつた。指導員の大井先生に御目にかゝつたから御知らせしたら、自分の事のやうに喜んで居られた。これから初年兵教育の準備で忙はしいだらう。

だん／＼寒くなるから、身體に氣を付け給へ。

先は御祝ひまで。

上等兵進級御祝ひに對する返事

今般上等兵拜命に就ては、分外の御祝詞を頂戴、誠に汗顔の至りです。御厚意深く御禮申し上げます。今回不束な私が此の名譽を得ました事は、全く皆様の御激勵御後援の結果で、今後果して此重任を全うし得るや否やあやぶんで居る處ですが、私の力の及ぶ限り奮闘致しまして皆様の御期待に副ひたいと存じて居ります。今後共何分宜しく御指導、御援助下さる様御願ひ申し上げます。

先は拙筆ながら御禮まで。

友の就職を祝ふ

愈々某會社の方へ決定したそうだね。御目出度う。御禮なんかいはれては困るよ。僕なんかほんの一寸口をきいただけだよ。君の人格と在隊間の拔群の成績が物をいうた譯さ。あの會社は基礎がしつかりしてるし、君の業務の方では、特に志操の堅實な人格者と云ふ希望だつたんだから、君にとつてはあつらへ向きだつた。将来君の發展、期して待つべしだよ、しつかりやり給へ。

先は御祝ひまで。匆々

出産を祝ふ（一般に）

拜啓 承れば御令閨様には玉の如き御男子御出産御母子共至極御肥立ち宜しき由、慶賀此の事に奉存候。別送の粗品御祝のしるしまでに呈上仕候間御笑納下され度候。

先は御祝まで斯の如くに御座候。敬 白

出産を祝ふ（親戚に）

芳書拜誦致しました。伯母様には男子御安産なされたそうで、誠に御目出度うございます。殊に御肥立ちも至極宜しいとの事、敏子さんの後の男の子にて、伯父様の御満悦の状目に見える様です。どうぞ折角御自愛下さう。

先は御祝ひまで。

出産を祝ふ（友人に）

愈々生れたつてね。然も男の子だつて。初めからえらい御手柄だ。奥さんも嘸御喜びだらう。殊に兄の平素の恵比須様の様な顔が此の喜びで何んなにかハ、ハ、ハ、何しろ萬歳だ。早速だが御節句も間近いから僕もあやかる様に鯉幟のうんと大きいのを祝ふよ。そのうち御届けする。大に坊ちゃんの前途を祝福して上げて呉れ。御肥立ち至極よいさうだが油断するなよ。大事にして上げ給へ。

御祝まで。

友の入營を祝ふ

五郎君 無事御入隊の由欣賀の至り。君の凛々しい軍服姿が目に見える様で羨望に堪へない。竹馬の時代から、訓練所でも机を並べて闘み合ひ、さては野良の仕事から、鎮守の御祭りの相撲まで、好敵手であつた君が居なくなつたので、急に張合が抜けて淋しい感じがする。だが君の様な純真な不屈な青年が我が村の代表で入營したと思へば、僕等まで肩身が広いよ。村の事や君の家の事など一寸も心配するな。あの時約束した様に、何でも引き受けるから。まあ早く君の軍服姿が見たいものだ。教練も馴れない間骨が折れるだらうが、しつかりやり給へ。先は御祝ひまで。

友の除隊を祝ふ

正夫兄 一年半の御奉公を終へて御歸郷のそうだね。満腔の祝意を表する。御両親様初め皆様の御満足、御喜悅深く御察しする。一口に一年半といふものゝ、其の間の御苦勞は容易なものでない事は、察するに難くない。而も優秀の成績で除隊された事は全く君の献身的努力と奮闘の結果だ。愈々これから、新なる戦線に向つて、進撃を開始されるであらふが、軍隊で鍛へた精神力と體力とは、

今後兄の活動に鬼に金棒だ。如何なる難局も打開するに充分な力となつてあらはれるであらう。御歸郷の日には停車場までいも御迎へに出るつもりだったが、差支があつて失禮した。何れそのうち御祝ひに参上するから、ゆつくり軍隊の御土産話を聞かせて呉れ給へ。

友の病氣全快を祝ふ

もう退院されたそうだね。御目出度う。こんなに早く快くなるとは思はなかつた。此の前御見舞に上つた時は仲々の重態だつたが、醫藥の効もさる事ながら、御両親様初め皆様の御看護のお蔭と兄の平素の強壯な體力と旺盛な元氣の賜だね。何しろ御目出度い。そのうち御祝に伺ふが、兄の例の氣質でじつとして居る事が嫌ひだから、快くなつたらすぐ仕事に精出すだらう。が病氣は兎角豫後が大事なんだからね、大に自重して呉れ給へ。

先輩の榮轉を祝ふ

拜啓炎暑日に増し相加はり候處益々御清榮の段賀し奉り候。陳者貴兄には今般東京本店勤務に御榮轉遊ばされ候由慶賀至極に存じ奉り候、實業界極度に不振の折にも拘らず、順風に帆を上げ快走す

るが如き進出振り、誠に以て羨望の至り御家族皆様の御喜びもさこそと察し居り候、近く出京の機之れあるべくと存じ居候間、其節御祝ひに参上仕るべく候へ共取敢へず御祝詞申し上げ度斯の如くに御座候。頓首

友の訓練所卒業を祝ふ

憲一君 螢雪の功成つて愈々御卒業だそうだね、御目出度う先輩振つた事をいふ様だが、四ヶ年の訓練は兵役に服すると否とに論なく、全く無駄ぢやない。旺盛な元氣と、強壯な體力で、物事をきちん／＼とかたづけて行く習慣、殊に時間を格守する點など、僕が今店主から信用を得て居る所以さ。店には高等の教育を受けた人も居るが、訓練所位、智育、德育、體育の三拍手揃つて殊に人格教育に力を入れてる所はない。此の點僕は何時でも訓練所の先生方に感謝して居る。

まあ卒業で氣を緩めず、しつかり家業に精出して、大に訓練所精神を發揮して呉れ給へ、家運の發展疑ひなしだ。先は御祝ひまで。

五 病氣其他見舞に關するもの

病氣で苦しんで居る時位元氣が沮喪し、淋しい沈んだ氣持になる時はあるまい。殊に親兄弟から離れて、異郷の病床に呻吟して居る時などは、尙更らゝの事であるから、そこをよく慰め氣を引き立て、力づけるやうな氣持のあらはれが此の文には必要である。

病人は一般に神経過敏になつて居るものであるから、字句や、言葉に氣を付けて神経を刺激しない様にしなければならぬ。

災害見舞も罹災者の悲嘆の情を察して、何處迄も同情心に満ちたものがよい。

- 1 父母の病氣を見舞ふ
- 2 他方の友の病氣を見舞ふ
- 3 右 返事
- 4 戦友の病氣を見舞ふ
- 5 郷里の友の病氣を見舞ふ
- 6 地震見舞
- 7 右 返事
- 8 暴風雨見舞
- 9 右 同
- 10 近火見舞（父母に）
- 11 類焼見舞（一般に）

父母の病氣を見舞ふ

其の後しばらく御無沙汰致しました。

今日兄上からの御書面によると父上様には御病臥中の趣、平素あれだけ御達者な父上様の御病氣、驚き入りました。御病名もはつきりしないとの事、此の暑さに御無理をなさつたのではないでせうか。どうぞ充分御養生なさつて、一日も早く御快癒遊ばす様御祈り申し上げます。

別送小包便にて當地名物の笹飴を一箱御送り致しましたから、父上様に差上げて下さい。

残暑が尙厳しい折柄ですから父上様は無論の事、母上様も兄上様も御身體に御氣をつけ下さい。私は至極壯健ですから御安心下さい。

取り急ぎ御見舞まで。

他隊の友の病氣を見舞ふ

松三君 乗馬演習中に怪我をして入院したそうだね。とんだ災難だつたな。骨折ではないとの事だから大丈夫だ。僕も上等兵候補者の時に、足關節をひどく捻挫して三週間ほど入院したが、今ではこの通りピン／＼して居る。内科の病氣と違つて相變らずの元氣だらうから、退屈でこまるだらう。今日雑誌「日本青年」を送つたから、寝ながら讀んで呉れ給へ。元氣にまかせて無理をするなよ、

充分療養し給へ。
先は御見舞まで、

右返事

御見舞頂戴恐縮の至り、「日本青年」まで送つて呉れて。ほんとに有り難う。實は演習中に乗馬が躓いて倒れたので、あわて、飛び降りた際、右脚のつき方が悪かつたものだから、遂足關節を捻挫した次第さ。然し大した事はないから心配しないで呉れ給へ。元氣は相變らず、病院の飯では腹がすいて困る位だ。讀み物もなくなつて淋しかつた時に、雜誌を送つて呉れたので大に助かつたよ。君の隊も忙はしいだらう。銃劍術も盛んにやつてるだらう。お互様足關節捻挫はもうこりこりだよ。呵々 御禮まで。

戰友の病氣を見舞ふ

其の後の容態はどんな具合か、君の寢臺があいて居るのを見ながら、遂御見舞にも行かないで失禮して濟まない。此の前の日曜日に行くつもりで居た處、外の人に故障があつたので急に僕が衛兵上番になつたために行けなかつた。

斑の方は異狀なしだ安心して呉れ、今度の日曜日には御見舞に行くよ、大事にし給へ。

郷里の友の病氣を見舞ふ

孝三君 武三君からの御便りによると、寐て居られるそうだね。その後如何ですか。君は今年徴兵検査を受ける筈でしたね。然し決して心配する事はない。君の平素の體格、元氣があつたから、それまでにはきつと快くなると僕は確信して居る。それから徴兵検査の方は、君は是非共今年受けて、合格したいのだらうが、そうあせらんでもよい。一年延期して來年受ける方法もあるのだから、此際は専心療養に心がけ、完全に元通りの身體になる様に、つとめた方が得策だらう。こういふたら、君は怒るかも知れないが、何しろ軍隊は身體が丈夫でないといけないから、無理をして入營して、後でまた悪くなる様でも困るから、よく考へて呉れ給へ。とにかく此の際完全になほすつもりで、氣長にゆつくり療養を続ける事だ。全快さへすれば一年位後れたつて、充分後から取り返しがつくからね。

くれぐれも御養生專一に、一日も早く御快癒の程を祈り上げます。

地震見舞

今朝の地震、只今號外を見て驚き入りました。貴村は震源地に近く被害甚大との事、御宅様御變

りもありませんでせうか、只々皆様の御恙なき事を祈つて止みません。取り急ぎ御見舞迄。

右返事

早速御見舞有りがたく存じます、號外の報道は稍々誇大で、當村は全潰家十、半潰十五六にて拙宅は屋根瓦數枚落下したのと、土藏の壁に龜裂を生じた位で、皆々無事避難致しましたから御安心下さい、先は御禮まで。

暴風雨見舞

昨夜から今朝にかけての暴風雨は近年稀れなる猛烈さで、殊に海岸近くの御宅の事とて、被害多かるべく、茲に御伺ひ申し上げます、當方は御蔭で何の損害もなく過しましたから御安心下さい。

暴風雨見舞

こちらではさほどとも思ひませんでした、新聞を見て驚きました。御地の被害は相當ひどい様子、御宅は御變りございませんか、御宅の畑は、何時も風當りの烈しい處の様存じますが、農作物の御損害も如何かと御案じ申して居ります。取り急ぎ御見舞申し上げます。

近火見舞（父母に）

朝刊の茨城版を見て驚きました、向ひ側の茂作さんの家が全焼したそうで、御両親様初め皆々様何程か驚かれた事と御察し申し上げます。ほんとに危い處でした、しかし類焼を免れたのは何よりでございます、後片附けが大變でございます。取り敢へず御見舞まで。

類焼見舞（一般に）

只今父からの便りによりますと、一昨夜の火事で御宅も類焼の厄にお遇ひなされし由、誠に驚き入りました。何とも御慰め申上げる言葉もありません。然し皆様御怪我もなく御立退の由にて、御不幸中の幸と存じ上げます。思ひながらも御手傳ひに参上する事も出来ませんでした、不悪御許下さい。先は御見舞御詫まで。

同返事

拙宅類焼に就て、早速御見舞状並に結構な品々、澤山御恵送下され、御禮の申上げ様もない次第です。何分深夜に隣家から發火致しました事とて、何一つ取り出す暇もなく、一同命からく飛び出した様な始末で、家内に怪我人がなかつただけが不幸中の幸ひです。何れ改めて御禮申上げますが、貴家御一同様に宜しく御鶴聲願ひ上げます。

六 謝禮に關するもの

謝禮の文を書く人は先方の厚意なり恩顧なりに對して、感謝の意志を持つて居るのであるから、充分先方に對して自分が表明せんとする感謝の念が紙面に溢れて居なければならぬ。然し謝意を表するにしても、事柄によりけりで、旅先で一吋御世話になつた人に、最上級の謝意を表したりすると、却つて變な手紙になつて、先方に好感を與へない事になるから、此の點も注意しなければならぬ。

- 1 除隊歸郷後中隊長に送る禮狀
- 2 同 内務班長に送る禮狀
- 3 同 内務班に送る禮狀
- 4 歸郷した戰友に送る禮狀
- 5 青年團員の來營慰問を謝す
- 6 訓練所指導員の來營慰問を謝す
- 7 來營の訓練所の友に謝す
- 8 演習中宿泊せし舍主へ禮狀
- 9 右 同
- 10 在郷軍人分會よりの慰問狀に對する禮狀
- 11 除隊となりし戰友（先輩）に謝す
- 12 中隊長の病氣見舞に對する禮狀
- 13 内務班長の病氣見舞に對する禮狀
- 14 戰友の病氣見舞に對する禮狀
- 15 看護の爲め歸省中の兵より中隊長に謝す
- 16 同 内務班長に謝す
- 17 内務班長より看護の爲め歸省中の兵に
- 18 看護の爲め歸省中の兵より休暇追加を内務班長に
- 19 休暇追加を許可せられしを内務班長に謝す
- 20 轉任せる上官へ禮狀
- 21 職業紹介の勞を謝す
- 22 退院後軍醫に送る禮狀
- 23 中隊長よりの入營通知に對する禮狀
- 24 退院後軍醫に送る禮狀

除隊歸郷後中隊長に送る禮狀

肅啓 正夫儀在營中は御懇篤なる御指導御訓育を忝ふし御蔭を以て首尾よく退營するを得候段厚く御禮申上候。尙退營に際しては善行證書まで賜はり身に餘る光榮に存じ候。本日午後五時無事歸宅仕り家族共も大喜びに御座候。今後は在隊中の御教訓を奉體し良兵良民の實を擧げ聊かなりとも邦家に貢献するを期し居り候間何卒御休慮下され度候。
先は右御禮申上げ度斯の如くに御座候。謹言

同 内務班長に送る禮狀

班長殿、在隊中は一方ならぬ御世話になりました、何とも御禮の申し上げやうもありません。佐藤事午後六時無事歸宅致しましたから御安心下さい、村の人達も家族共も一同大喜びで、驛まで迎へ

に来て呉れました。それに村から出たもので、善行證書と下士適任證書と二ついたゞいたのは、私だけだといふので、村長初め村の人達からはほめられ、大に面目を施しました。これ偏に在隊間の、班長殿の御指導の賜物と、深く感謝致します。今後は平素の御教訓を身に體して在郷軍人の本分をつくす決心で御座います。

終に班長殿の御健康と御武運の長久を祈り上げます。

取り敢へず御禮旁々歸郷御挨拶迄。

同 内務班に送る禮狀

昨夕無事歸宅致しましたから御安心下さい。在營中は同じ班に寢食を共にし、公私共に御世話になつて、誠にありがとうございました、厚く御禮申し上げます。班も急に淋しくなつたでせう、そしてまた俄に忙はしくなつたでせう、今までの二人分を働くやうになつた諸君の御苦勞、御察し致します、しかしそのうち初年兵の入隊で、また賑かになるでせう、私共が居た時の様な、平和な温かい然もお互が親身に助け合ひ、勵まし合つたほんとうの家庭の状態を續けて下さい。初年兵達を可愛がつてやつて下さい。私達もこれから大に家業に勵みます。切角御大事に仲よく軍務に勉勵して下さい。

先は御禮旁御通知まで。

歸郷した戦友に送る禮狀

澤井君 在隊中は二年間同じ班で枕をならべ、ほんとに苦樂を共にしたね。班内でも演習場裡でもよくもあんなに仲よくやつたものだ、御陰で二年間愉快に暮した、今思ひ出しても他人の様な氣がしないよ。昨夜は御両親様方の膝下で、御土産話がつきなかつたらう。僕も昨夕無事歸宅一家總動員の歡迎だつた、呵々。明日からおやぢの分まで働くよ。御互にこれから軍隊に居た時の攻撃精神で働かう、今後も忘れずに通信を續けやう、では御禮まで。

青年團員の來營慰問を謝す

團員各位昨日は御捕ひで、遠路わざわざ御來營御慰問下され、誠に有り難うございました。幸に中隊長殿の御好意で、教練の時間であつたにも拘らず、ゆつくり御目にかゝり、種々郷里の近況を承る事を得ましたのは、何よりの幸福でした。久しぶりに元氣溢るゝばかりの諸君に御目にかゝる機を得、かくも熱誠こめた御慰問や、御激勵の御言葉を頂戴して、いやが上にも心の繁張を覺えます必ず郷土の名譽の爲めに、刻苦精勵して人後に落ちない事を、固く期して居ります。將來共一臂の

御後援を御願ひ致します、先は御禮まで。

訓練所指導員の來營慰問を謝す

先生 昨日は御忙はしい中を態々御訪ね下さいまして、誠に有り難うございました。折悪しく中隊戦闘教練の整列間際だったものですから、ゆつくり御話を拜聴する事も出来ませんでした。ほんとうに御懐しうございました。其の際の御激励の御言葉は、深く肝に銘じて忘却致しません。専心軍務に勉勵致しますから、何卒御安心下さい。尙留守宅の事まで御心にかけさせられ、何とも御禮の申上様もありません、今後共宜しく御願ひ申し上げます。
先は拙筆ながら御禮申し上げます。

來營の訓練所の友に謝す

井上君 昨日は態々訪ねて呉れて、ほんとうに嬉しかつた。それにあゝして話し込む時間があつたのは何よりだつた、御蔭で村の様子から訓練所の最近の様子まで、すつかり判つて有りがたかつた。それにしても訓練所が、今以て隣の村よりふるはないとは、實に残念だな、昨夜は一晚中其れが氣がゝりだつたよ。一つ君の力で大に奮發して呉れ給へ、僕も及ばずながら兵營から後援するから、しつかり頼むよ、では諸君に宜しく。

演習中宿泊せし舎主へ禮狀

肅啓 益々御多祥の段奉賀候、過日錦地宿營の節は思ひもかけぬ御款待に預り誠に忝けなく御禮申上候、其の後演習を續け、名古屋附近にて演習終了、昨日無事歸營仕り候間乍他事御放念下され度候。茲に取り敢へず一筆御禮申上候。敬具

右 同

先日秋季演習中御地宿泊の際は、一方ならぬ御懇情を賜はり、有りがたく御禮申し上げます、折悪く雨天で、被服の乾燥、其の他に心配致して居りました處、貴家御一同總動員で徹夜御盡力下され、御蔭で私共は樂々就眠が出来ましたので、體力、氣力共に恢復、翌日は新たな元氣で演習を始め、愉快に演習を終了する事が出来ました、全く皆様方の御心づくしの賜物と、深く感謝致します。昨日無事歸營致しましたから御安心下さい。
先は取り敢へず御禮申し上げます。

在郷軍人分會よりの慰問狀に對する禮狀

御懇書有り難く拜誦致しました、暑さ日々に加はり、こちらは第二期檢閲の野營に出發する頃になりました。丁度其際御慰問狀に接しまして村出身者一同士氣一層揚るの感があります。私共全力を

盡して奮闘、郷黨の爲めに萬丈の氣を吐く覺悟ですから何卒御休神下さい。先は謹んで御禮申上げます。末筆ながら分會員各位の御健康と、分會の御發展を祈り上げます。

除隊となりし戦友（先輩）に謝す

其の後御變りありませんか、御退營後急に班が淋しくなりました、初年兵として入隊以來、手とり足とりの御厄介になつてゐましたので、殊更御在營當時の御深情が思ひ出されます。よく一しよに散歩したあの松林が、この窓から見えます、これも思ひ出の一つです。

御蔭で今度上等兵に進級させて頂きました、全く兄の御誘掖、御指導の賜で、深く感謝して居ります。隊では今相變らず銃劍術が盛んです。初年兵教育の豫習も續けて居ります。私も初年兵が入隊して來たら、曾て私が兄に御世話になつた恩返しのため、親切に接してやりたいと思ふて居ります。別封の寫眞、上等兵になつて初めて撮つたものです、記念に一葉御目にかけます、御笑覽下さる。

日増に寒氣が加はりますから、御身體を御大切に、御家業に御奮勵の程祈り上げます。

中隊長の病氣見舞に對する禮狀

謹啓 孝一儀入院に就ては一方ならぬ御配慮に預り且つ軍務御繁忙の折わざく御見舞下され千萬

忝けなく御禮申上候、其の後御蔭を以て體温も下り殆んど平熱と相成り食慾も増進し、此の分なれば後一週間位にて退院し得る事と存居り候間乍憚御休神下され度候。先は御禮まで斯くの如くに御座候。敬具

内務班長の病氣見舞に對する禮狀

班長殿 此の間の日曜日には、折角の御休みの處、わざく御見舞下さいまして、誠に有り難うございました。厚く御禮申し上げます。其の後患部の疼痛も薄らぎ、日増に自由がきく様になります。だから御安心下さい。此の分ではあと二週間位で退院出来るだらうと軍醫殿も申して居られます。早くあの懐しい班に歸つて行きたいものです。近く射撃演習に御出かけの由、暑さもまだ厳しうございますから折角御自愛下さい、先は御禮まで。匆々

戦友の病氣見舞に對する禮狀

此の前の日曜日は、衛兵上番だつたそうですね、御見舞難有く拜見しました、何時に變らぬ御友情感謝の至りです。御蔭ですんぐよくなつて居ります、今月末には退院出來そうだから御安心下さい。特別教育の方はみんな勉強してらだらうね、銃劍術も僕の居ない間に上達したらうね、早く歸つて一しよに勉強したいものです。

特別班の諸君に君から宜しく御傳へ下さり、御禮まで。

看護の爲め歸省中の兵より中隊長に謝す

拜啓 正三儀父危篤に就て早速休暇を賜はり誠に有り難く厚く御禮申上候。父事依然危篤の状態を
持續致し居り候へ共幸に意識明瞭にて小生の見舞を非常に喜び中隊長殿初め上官各位の御親情に感
謝致し居り候。家族共よりも宜しく申出候。取り急ぎ御禮旁々御一報申上候。敬 具

同 内務班長に謝す

班長殿 母危篤の爲めの休暇に就ては、種々御心配下さいまして、誠にありがとうございました。
御蔭で只今歸宅致しました。早速母を見舞いました處、非常に喜んで、班長殿の御同情に對し感涙
に咽んで居ります、なか／＼の重態でとてもむづかしいと存じますが、醫師は尙一縷の望あるやに
申呉れましたので、私もそれに力を得て専心看護致して居ります。一日でも二日でも、存命中に看
護出來ます事は、私の無上の幸福です、重ねて御禮申上げます。與へられました期限内には必ず歸
隊致します、もし又續けて休暇を御願ひしなければならぬ様な場合には、間違ひなく其の手續を致
しますから御安心下さい。甚だ亂筆ですが取り急ぎ御禮旁々御一報迄。

内務班長より看護の爲め歸省中の兵に

拜復、父上様依然御重態の由何とも御氣の毒至極、貴君の御心痛深く察し入り候。此の上は専心御
看護に努め、充分御孝養を盡される事を切望致候。小生並びに班員一同貴君の御看護の効現はれ、
御快癒あらん事を祈り居り候。

尙三日迄の期限にて歸隊不可能の節は、前以て手続きせらるゝ事肝要に付き、老婆心ながら申添候
不

看護の爲め歸省中の兵より休暇追加を内務班長に

母事今朝から意識全く不明となり、午前十一時遂に死去致しました。就いては小生の休暇の期限は
三日午后八時迄ですが、葬儀や後始末の都合もありますので、後四日間即ち七日午后八時迄追加の
御願ひ致し度うございます。取り敢へず村長から、中隊長殿宛、右御願ひの電報をうちました。尙
ほ證明書及御願ひは同封して發送致しましたから、何卒宜しく御取計ひの程願ひ上げます、重ね
／＼御手数をかけましてすみません、取り急ぎ御願ひまで。

休暇追加を許可せられしを内務班長に謝す

たゞ今休暇追加願御許しの電報を受領致しました。重ね／＼班長殿の御手数を煩はし恐縮に存じま
す。軍務に服しある身にも拘らず、母の最後の看護を致し、葬式の世話までも出來ますことは、子

として此上思ひ残すところはありません。偏に班長殿の御同情の賜物と感激致して居ります。葬送は明後五日と決定致しました。七日の夕までは間違なく歸隊致しますから、御心配下さらぬ様願ひ上げます。中隊長殿並に特務曹長殿によりしく御願ひ致します。

轉任せる上官へ禮狀

中隊長殿に御別れ申してから、はや一月になります、御壯健で軍務に御精勵の事と拜察致します。御在職中は御慈愛深き御教育に預りまして、有りがたく御禮申し上げます、御別れの時は眞に慈父に別れた様な感じで、日々御慕ひ申して居ります。何卒今後共何分の御教示御指導を賜はります様御願ひ申し上げます。

甚だ拙筆ですが右御禮申し上げます。

職業紹介の勞を謝す

過日は厚顔しき御願ひ申上げました處、一方ならぬ御盡力をたまはり、御芳情厚く御禮申し上げます。幸ひ本日會社の方から採用の旨の通知に接しましたのみならず、思ひもよらぬ過分の給料を下さるとの事、偏に貴下の御同情、御斡旋の賜と感謝に堪へません。この上は驚鈍に鞭打つて奮

勵し、貴下の御同情に報いたいと期して居ります。今後共何分の御教示を賜はります様御願ひ申し上げます。早速御禮に罷り出づべきであります、明日より出社の都合もありますので、失禮ながら書狀を以て御禮申し上げます。何れそのうち參堂御禮申上げる所存でございます。

先は取り敢へず右御禮まで。草々

退院後軍醫に送る禮狀

軍醫殿 小田入院中は、一方ならぬ御世話様になりました、誠にありがとうございました。斯様に速に恢復して、再び軍務に従事する事が出来る様になりましたのも、偏に軍醫殿の御手厚き御手當の結果と、深く感謝致して居ります。昨日無事歸隊致しましたから、何卒御安心下さい。先は取り敢へず御禮申し上げます。

中隊長よりの入營通知に對する禮狀

復敬、私事入隊に就て御鄭重なる御書面及び詳細なる御注意書等を賜はり難有く拜誦仕り候。幸ひに名譽ある貴中隊に編入の光榮を得候段欣喜此の事に存じ奉り候。身體だけは強健に候へ共性來魯鈍なるものに有之御厄介相掛け候事と心痛致し居り候。今回御教示の數々必ず相守り入營仕るべく入隊後は萬事宜しく御指導下され度奉懇願候。先は書中を以て御禮申上候。頓首

七 弔慰凶事に關するもの

死者の家族を慰問するやうな場合には、先方の悲嘆の涙に暮れて居る心情を察し、最も懇切に、暖か味もあり、やはらかみもある、同情心に満ちた文でなければならぬと同時に、沈んで居る心を引き立て、力づける事も必要である。然し力づけるといふても、あまり強い字句を用ゐると、却つて先方の氣を悪くさせるやうな事もあるから、其邊よく氣をつけねばならぬ。

その他、死去の通知、會葬を謝するやうな文は成るべく簡潔に書くが良い。

そして凶事であるから、忌言葉などにも注意しなければならぬ。

- 又前文や挨拶、その他の用件等は書くべきものでない。
- 1 戦死せる友の遺族を慰問す
 - 2 死去を報ず
 - 3 悔みの文
 - 4 會葬を謝す
 - 5 會葬を謝す
 - 6 香奠返しの挨拶
 - 7 佛事に招く

戦死せる友の遺族を慰問す

念息武夫君滿洲に於て戦死の報に接し驚き入りました。皆様御愁傷の程深く御察し申し上げます。然し軍人が一度戰場に臨めば、生還を期しないのが常であります、竹馬の友の私としましては、一般の武夫君の御出征の時から、必ずや目ざましい戦功を立てられるだらう、決して大死はしないと堅く信じて居りましたが、果して全國の新聞が特筆大書して、全國民の讃歎の的となつて居る様な、壯烈無比の戦功を立てられた事は、誠に軍人の精華であり、國民の儀範であつて、芳名永く竹帛に垂れ、長へに護國の神と仰がれるであります。で私などは同じく軍人として、未だ内地にまごつて居て、武夫君に對しても申譯無い様な氣が致します、然し御宅にとつては柱石となるべき武夫君を失はれて皆々様の御悲嘆の程、深く御同情申し上げます、武夫君も男子の本懐として、笑つて瞑目された事でせうから、御力落しなき様御願ひ致します。

死去を報ず

父源太郎儀久しく病氣の處養生相叶はず昨十日午後十時二十分死去致候間此の段御通知申上候。

追て葬式の儀は來十三日午後一時自宅出棺、極樂寺町往生寺に於いて相營み可申候。

悔みの文

御尊父様、皆様の御手厚き御看護の甲斐もなく御長逝遊ばされ候由誠に以て驚き入り候嗚かし御愁傷の御儀と深く拜察御同情に堪へず候就ては同封の御香花料甚だ輕少には候へ共御佛前に御供へ下され度候。先は御悔申上度如期に御座候。

會葬を謝す

亡父源太郎葬送の際は遠路わざわざ御會葬下され誠に難有く御禮申上候、何分混雑中萬事不行届にて失禮の段幾重にも御用捨下され度候。取り敢へず書中を以て御禮申上候。

會葬を謝す

亡父源太郎葬儀の際は遠路わざわざ御會葬を辱ふし御懇情厚く御禮申上候右略儀ながら以書中御禮申上候。

香奠返しの挨拶

長男源一死去の際は御鄭重なる御弔問並に多額の御香奠を忝ふし御懇情厚く御禮申上候、本日をして七七日忌を相營み申し候に付き粗品にて失禮には候へ共右拜送仕り候間御受納下され度候。

佛事に招く

本年は亡父三回忌に相當り候に付來る七月七日午前十時極樂寺に於いて法要相營み申すべく候間、

御多用中恐縮ながら御來駕下され度御案内申上候。

八 報知等に関するもの

報知に関する文例の内容は雑多であるが、報知文としては報知しやうとする事柄と、之に關聯した自分の氣持が充分紙面にあらはれて居る事が必要である。

- 1 軍旗祭に父母を招く
- 2 同 郷里の友を招く
- 3 右 返事
- 4 除障時日を父母に報ず
- 5 右同 村長に報ず
- 6 右同 友人に報ず
- 7 上等兵候補者となりしを父母に報ず
- 8 右同 親戚に報ず
- 9 上等兵候補者となりしを友に報ず
- 10 友の上等兵候補者となりしを祝す
- 11 友の上等兵候補者の選に洩れたるを慰む
- 12 精勤章を附與せられたるを父母に報ず
- 13 右同 舊師に報ず
- 14 右同 友に報ず
- 15 上等兵に進級を父母に報ず
- 16 右 同
- 17 右同 村長に報ず
- 18 右同 訓練所の舊師に報ず

- 19 右同 郷里の友に報す
- 20 歩兵學校分遣を父母に報す
- 21 歩兵學校到着を中隊長に報す
- 22 訓練所主事の異動を在營の友に報す
- 23 訓練所生徒から在營の友へ
- 24 歡迎會の通知
- 25 軍歌集を友に送る
- 26 留營者より野營地の戰友へ
- 27 同 内務班長へ
- 28 野營地より留營の友へ
- 29 野營地より郷里の友へ
- 30 水泳演習の狀況を友に報す
- 31 秋季演習出發を父母に報す
- 32 秋季演習地より父母に報す
- 33 右同 友へ
- 34 右同 留營の友へ
- 35 留營者より秋季演習地の戰友に
- 36 行軍演習の狀況を友に報す
- 37 入院を父母に報す
- 38 入院を郷里の友に報す
- 39 病氣全快を父母に報す
- 40 友の病氣を在營の友へ報す
- 41 下士官候補者に採用されしを父兄に報す
- 42 歳末休暇歸省を父母に報す
- 43 轉居を友に報す
- 44 安着を友に報す

軍旗祭に父母を招く

父上、母上様 来る十五日は私の聯隊の軍旗拜受記念日です、御承知でせうが、当日は聯隊が編成せられた時に 天皇陛下より軍旗を授けられました日から、丁度五十年目にあたるのです。それを記念する爲めに、式典が擧げられるので、日清、日露の兩戰役や、今回の滿洲事變での、赫赫たる武勳を揚げた軍旗を奉迎して、分列式が行はれます。式が終つてから、各中隊思ひ／＼に趣向をこらした、餘興があります。當日營内は一般に開放されますから、誰でも營内を見學する事が出来ます。又中隊には家族接待所が出来て居りますから、ゆつくり御見物が出来ます。家の方も色々御忙しいでせうが、私の在營中に軍旗祭を迎へるのは、本年限りですから、御繰り合せの上御出かけ下さい。式は午前十時に始まりますから、九時半頃に御出でになつたらよいでせう、尙式がすめばあとは自由ですから、ゆつくり御案内申し上げます。

軍旗祭に郷里の友を招く

六郎君 此の十日は僕の聯隊の、軍旗拜受第五十回の記念日だ。それで聯隊では、記念の式典を擧げる事になつて居る。當日は午前十時から、營庭で軍旗を奉迎して分列式があり、終つて色々な趣向をこらした餘興がある筈だ。この式典はとても莊嚴なもので、思はず襟を正さしむるものがある。

是非一度見學に来る價値があると思ふね。式が終るとあとは自由だから、ゆつくり御目にかゝれる。式前は忙はしいが、中隊には接待所があるから午前十一時頃そこに訪ねて来て呉れ給へ、若し都合がよければ、隣の七郎君も誘つてくれ給へ。

軍旗祭に誘はれた返事

御親切な御書面ありがたく拜見致しました。軍旗祭に御案内下され感謝に堪へません。貴兄の御在營中に、是非共一度は、見學させていたゞかうと思ふて居た處でした。父に此の話しをしたら、喜んで一しよに行くと思し、七郎さんも無論賛成しました。では當日午前十一時頃中隊に御訪ねしますから宜しく御願ひ致します。余は拜眉の上、先は御禮旁御一報まで。

除隊時日を父母に報す

私の歸休除隊も、いよゝ二十八日朝ときまりました。土産物に就ては、父上の仰せの通り致しました。退營時刻は午前八時ですから、そちち挨拶廻りをして、十時の汽車には乗れるだらうと存じて居ります。それから千葉驛で乗り替へる時、村出身の諸君と待ち合せ、午後四時北條着の豫定です。荷物も澤山ありませんし、別に持つて来て頂くものもありませんから、迎へる人はよこしていたゞかないでも、宜しうございます。村長さん、分會長さんの方へは、別に御通知致して置き

ました、先は御一報まで。匆々

除隊時日を村長に報す

拜啓 村長様には愈々御清祥の段奉大賀候、小生除隊に就ては種々御配慮を忝ふし難有く奉鳴謝候。御蔭を以て来る二十八日朝除隊を命ぜらるゝ事に確定仕候に付き御休神下され度候。當日は千葉驛にて野重、及騎兵の諸君と待ち合せ打揃つて午後四時清川驛着の事に豫定致し居り候。何れ歸村の上御挨拶申上べく候へ共取り敢へず御禮かたゞ御通知申上候。頓首

除隊日を友人に報す

来る二十八日愈々歸休除隊を命ぜられる事にきまつたよ、立つ鳥は後を濁さず」でね、二年間僕と苦樂を共にした兵器や被服を、綺麗に手入をして可愛がつてやつてるよ。二年の間此の兵營で寢食を共にした戦友や、子供の様に面倒を見て下さつた上官達との別れも、今更名残り惜しい。最後まで立派に御奉公をして行くよ、二十八日は午後三時頃歸宅の豫定だ、その内ゆつくり話さう。五郎君にも宜しく傳へて呉れ。

上等兵候補者となりしを父母に報す

父上、母上様 三郎は本日上等兵候補者に選拔されました。去る一月一しよに入營した中隊の初年

兵八十名の中から、二十名ばかり選抜されたのです。これから初年兵としての普通の教育の外に、上等兵候補者としての、特別教育を受ける事になるのです。まず、忙はしくなりますが、大に奮發して、此の十二月には是非とも上等兵に進級の榮譽を、擔ひたいと思ひます。先づ第一の希望だけ達しましたから御喜び下さい。どうぞ御身體を大切に遊ばして下さい。

上等兵候補者となりしを親戚に報ず

伯父様 伯父様の現役時代は伍長勤務だったんですね。三郎は今度御蔭で上等兵候補者に選抜されました。伯父様に負けないつもりでやつたんです。先づ第一希望だけは達したわけですから、これからうんと奮發して、必ず上等兵の肩章をつけて伯父様に御目にかけます、この十二月を見て居て下さい。今迄に倍して大に後援して下さい、御知らせまで。

上等兵候補者となりしを友に報ず

武夫君 僕もやつと上等兵候補者の選に入つたよ、喜んで呉れ給へ。入營以來他の同年兵には、術科でも學科でも負けないつもりで死者狂ひの奮闘を續けたが、どうして、他の訓練所から來て居る人の中には、すばらしいのが居るよ、自信はあつたが、いざとなると多少心配だつた。處が昨日中隊長殿から愈々選抜の命令を受けてほつとした。これから初年兵として的一般教育の外に、特別教

育があるから忙はしくなるよ。然し負けるものか、うんとやるよ、十二月を見て居て呉れ給へ。

友の上等兵候補者となりしを祝す

三郎君 愈々上等兵候補者になつたつてね、全く君の負けず嫌ひの奮闘の賜物だ、双手を舉げて祝ふ。第一の希望を達しただけで満足しては何にもならない、眞の奮闘はこれからだ、頑張れ。十二月には肩の星が三つになつた軍服姿を見るのを、今から楽しみにして居る、先は御祝迄。

友の上等兵候補者の選に洩れたるを慰む

君御手紙拜見した、上等兵候補者の選に洩れたつてね、そんなに悲觀するなよ。君の平素をよく知つてる僕としては、君の今の心情深く御察しするが、そのみが御奉公の道ではない、聯隊で一番強い二等兵であれ、そして一番強い一等兵に進め。如何なる悲境に陥つても、如何なる難局に處しても、不屈不撓の人こそ、眞に將來ある人で、運命の開拓も亦それから出来るのだ。長い目で前途を見給へ、洋々たるものがあるよ。

何れ近いうちに營内見學に行くから、其の時ゆつくり御話しやう。くれぐれも自暴自棄に陥つてく

精勤章を附與せられたるを父母に報ず

御兩親様御喜び下さい、私は今度勤務勉勵、品行方正の故を以て、精勤章といふものを附與せられました。これは右腕に赤い山形の徽章をつけるのです、これからは兵營の内外共、人目を引く様になりましたので、自分ながら、責任の重くなつた事を自覺致しました。今後一層奉公の誠を捧げたいと考へて居ります、勤務と品行により半年毎に精勤章を附與される事になつて居りますので、除隊の際には、最高の三本迄進みたいと存じ、大に奮勵努力致します。

精勤章を附與せられたるを舊師に報ず

先生 何時も御健勝で、慶賀至極に存じ上げます。私事此の度思ひがけなくも、精勤章を附與せらるゝの、榮譽に浴しました。生來魯鈍な私、此の名譽を擔ひました事は、一に先生の平素の御教訓と御鞭撻の賜物に外なりません、深く御禮申上げます。今後益々奮勵致しまして、此の名譽を傷けない様に致す覺悟で御座いますから、何うか今後共宜しく御教導御後援の程偏に御願ひ申上げます。甚だ失禮ですが訓練所生徒諸君にも、先生より宜しく御傳へ下さる様御願ひ申上げます。先は御一報かたぐ御禮申上げます。

精勤章を附與せられたるを友に報ず

長らく御無沙汰をした、此の間から野營演習に行つて居て一昨日歸つて來た。昨日僕思ひがけもなく精勤章を附與せられたよ。精勤章は品行方正、勤務勉勵なものに賜はるので、右の袖に赤い山形の徽章を付ける事になるのだ。昨年近歩三の正一郎君が歸郷した時、附けて居たあれだよ。努力だけはしたつもりだが、外に人並以上に優れたところのない僕が、選拔されたのだから、内心恥しいわけさ、然し此の名譽も責任もよく自覺して居る。田の手入れが忙はしいだらう、暑い時だから身體を大事にし給へ。御一報まで。

上等兵に進級を父母に報ず

拜啓 私事十二月一日附を以て上等兵に進級の恩命に接し申候。平素父上母上様の御鞭撻の賜物と深く感謝致居候、愈々責任の重且つ大なるを自覺し此の榮譽を失墜せざる様奮勵努力仕るべく候。先は取り敢へず御一報迄。敬具

右 同

父上様母上様 正三は本日上等兵に進級の恩命をいただきましたから御喜び下さい。私の入營後は御二人で私の分まで働いて下さいますので、私も安心して一意専心、軍務に精勵致しました。其結果本日私が此の名譽を擔つたわけで、全く御二人の賜物に外なりません。私の此の喜びにつけても、

御二人の御辛勞を深く御察し申し上げ、御厚恩の程を感謝致して居ります。此の上は今までに倍して奮勵致し、此の名譽を傷けない様に致す決心でございます、どうか後一年の御辛棒を御願ひ申し上げます。先は進級の御知らせまで。

上等兵に進級を村長に報ず

村長様 正三は本日上等兵に進級の恩命に浴しました。これ平素の御指導と御鞭撻の結果と、深く御禮申し上げます。留守宅も始終御厄介に相成りますそうでも御禮の申上げ様ありません。親共も非常に村長様の御厚意に感謝致して居ります。今後共何分宜しく御願致します、これから益々奮勵して、此の名譽を墜さない様に致す決心で居ります。寒さに向ふ折柄村長様の御健康を切に御祈り申し上げます。先は御禮かた／＼進級の御報まで。

上等兵に進級を訓練所の奮勵に報ず

先生 御蔭様で本日上等兵に進級させていただきました。これ偏に先生方の御指導と、御激勵の賜物と深く／＼御禮申し上げます。進級と共に、自分の責任の愈々大なる事を自覺致しまして、益々軍務に精勵し、先生方の御恩に報いると共に、郷黨の名譽を發揚したいと考へて居ります。今後共何

卒相變らず御指導下さる様、懇願致します。

向寒の砌り先生方の御健康を御祈り致します。

先は御禮かた／＼御一報迄。

上等兵に進級を郷里の友に報ず

今日上等兵に進級の恩典に浴した、上等兵候補者として、充分自信はして居たものゝ、さて愈々命令を受けて見ると、嬉しさはまた格別だ。今後果して此の重任を全ふし得るかどうか心配だが、然しやるよ。頭の足りないところは身體で補つてゆく。初年兵教育の助手の任命も受けたので、ますます忙はしくなつた。先は御知らせまで。

歩兵學校分遣を父母に報ず

御兩親様 太一事今度陸軍歩兵學校教導隊へ分遣を命ぜられましたので、本月廿七日頃出發する事になりました。歩兵學校のある處は千葉市の市外で、我陸軍の兵器や最新の戰闘法などを研究する處です。私の參る教導隊は學校の研究機關で歩兵大隊、通信、機關銃、歩兵砲、戰車などの隊から成り立つて居ります、そして兵員は、全國の歩兵隊から選抜したもので編成されて居ります。分遣期は約一年ですから、其間今までの様に一寸御目にかゝる事が出来ません。何れ出發期日が確定致

しましたら、更に御通知申し上げますが、取り敢へず御一報まで。

歩兵學校到着を中隊長に報ず

謹啓 山田は陸軍歩兵學校教導隊分遣の光榮を得候處、途中無異昨一日午前九時到着第一中隊に編入せられ候間御放慮下され度候。出發前の御訓諭は堅く服膺し精勵以て母隊の名譽を發揮するに努力仕るべく候。

時下炎暑の砌り中隊長殿の御健康を祈り上げ候。先は取り敢へず到着の御報申上候。敬 具

訓練所主事の異動を在營の友に報ず

梅も散つてもうぢき櫻だ。農家も急に忙はしくなつたよ、第一期の檢閲前だつてね、さぞかし忙しい事だらう。御宅の方は皆様御達者で、畑の仕事に精出して居られるから、安心して呉れ給へ。處で今度主事先生が〇〇校長に御榮轉だそうだ。あの人格とあの奮闘振り、先生としては當然の御榮轉だらうが、村として又訓練所としては實に惜しい。振はなかつた我が訓練所の發展の爲めに、校務の餘暇に戸別訪問をして入所を勧めたり、銃器を買ふ資金を作る爲めに、村の有志や生徒たちと共に、先生が自ら鋏を取つて働いて下さつたあの努力、今思ひ出しても涙が出る。我訓練所が、今縣下でも折り紙付の、優良訓練所と言はれる様になつたのも、全く先生の献身的努力の賜物だよ。

今朝先生御榮轉の話が出たら、忽ち村中に廣がつて、僕が鋏を捨て、學校にかけつけた時にも、皆集まつて先生を圍み、別れを惜んで居た。残念だが致し方がない、先生は御榮轉なんだからなあ、御祝しやうよ。みんなで明日茶話會を開いて心ばかりの送別の意を表する事にした。

先生の御蔭で基礎はしつかり出来て居るのだから、今後の發展は我々の努力でやるよ、しつかりやるよ、君も大いに後援して呉れ給へ。

訓練所生徒から在營の友へ

愈々夏らしくなりましたね、兄の御便りは主事先生初め一同に御披露して、兄が元氣旺盛で中隊教練のため夜を日についでの御奮闘ぶりを偲び合ひました。それに刺激されてか、昨日の野外演習には風を引いて居たものも、脚をいためて居たものも全員参加して、大元氣で演習をやりました。先生方からも今までにない良い講評をいたゞいて、一同大喜びでした。村ではそろ／＼田植が初まります、此の元氣で天候や勞苦と戦つて、凱歌を擧げたいと思つて居ります。兄が軍隊で猛演習を續けて居る事を思へば、何でもない事です。主事指導員の先生方は、何れも御元氣で訓練に従事して居られますから御安心下さい。向暑の砌り切に御健康を祈り上げます。

往信の裏

歡迎會の通知 (往復はがき印刷)

拜啓 大森武君今回上海より凱旋、来る十五日歸省せらるゝ由に付、有志相集り歡迎會相催し度候間、萬障御繰合せ御出席下され度御案内申上候

會場 高田村小學校

時日 六月十六日午後六時

會費 五拾錢(當日持參の事)

追て準備の都合も有之候間御出席の有無十五日夜迄に御一報相煩度候

月 日

發起人 竹田節夫

太田清

返信の裏

歡迎會の通知 (往復はがき印刷)

出席

缺席

芳名

歓迎會の通知 (往復はがき印刷)

高井郡高田村役場内

竹田節夫行

往復はがき



軍歌集を友に送る

青年訓練所は相變らず盛んだそうだね、此の間は、訓練所初まつて以來の、大規模の野外演習をやつたそうだね、大いに結構だ、僕も双手を舉げて讃辭を呈する。處で此の間新しい軍歌集が出来たのを手に入れたから、一部送付する「青年の士氣は軍歌より」と全くその通りだ、軍歌には一々由來と解説がついてるから、精神修養の資料にもなるし、士氣振興上にも良い材料だと思ふ、大いに歌つて呉れ給へ。それから指導員の先生方にも、御覽に入れて呉れ、今軍隊でも軍歌が非常に盛んだ。僕相變らず元氣だ安心して呉れ給へ。

留營者より野營地の戦友へ

連日炎天下の御奮闘、一入御苦勞の事と御察し申す、然し汗びつしよりで、重い脚を引きずりながら、廠舎に歸つて一風呂浴び、青芝生の上で寝ころびながら語り合ふ、あの快味は留營者にはとても味はれない、全く羨ましいよ。僕等は衛兵勤務が主で、毎日上番下番の頻繁さだ。留守番をしっかりとやりやつて待つて居るから、檢閲にはうんと頑張つて、中隊の名譽を發揚して呉れ。今度の野營も珍談が多いだらう、それを楽しみに待つて居る。班の諸君に宜しく。

留營者より野營地の内務班長へ

班長殿 連日炎天下の御奮闘、御苦勞に存じます。私共留營者一同、一人の病人もなく、眞面目に各々其勤務に勉勵致して居ります。朝夕は一同で、欠かさず銃劍術、射撃豫行演習などに精進して居りますから御安心下さい。檢閲も間近き事、切に御健康を祈り上げます、失禮ながら班員各位に宜しく御傳へ下さい。尙山野一等兵が昨日退院して参りました、病氣前と殆んど變りない位な元氣です。

野營地より留營の友へ

全く暑くなつたね、留營勤務御苦勞様、上番下番、隔日の衛兵勤務御察しするよ、衛兵勤務で歩哨線を一巡すると、汗びつしよりだらう。野營地に来てから今日で七日になる、今日は中隊戰闘教練の檢閲で一同大いに奮闘した、檢閲官殿の御講評も、一致團結、中隊長の意圖の如く戰闘が出来、然も士氣旺盛で、中隊戰闘の眞價を發揮したといふ、最上級のものだつた。連日炎天下の奮闘の効空しからずで、中隊の士氣愈々旺盛だ、安心して呉れ給へ、あと三日で歸る。今度の野營は珍談が多いぞ。何れ歸つてからの御土産に。

野營地より郷里の友へ

野營地に来てからもう五日になる、一面の芝草の上に雲雀が長閑さうに囀つて居るが、僕等は毎日戰闘教練に、陣中勤務に夜を日についての奮闘中だ。と書いたら苦しい事ばかりの様に思ふだらうが、汗びつしよりで攻撃につぐに、追撃又追撃で一戰闘終り、水筒からくりと一息に呑んだ時の氣持は、全く價千金だよ。それから軍歌を歌ひながら、廠舎に歸つて一風呂浴び、夕食をすまし、青々した芝生の上に身體を投げ出して、月を眺めながら戰友と語り合ふ樂しさは、全く苦あつて始めて得られる快樂だ。

村では麥刈も終つて後始末に忙しい時だらう、君のところの畑も良い作だつたさうだね、昨日の朝はまた早いから、今夜は是れで擱筆する、隣の正夫君にも宜しく傳へて呉れ給へ。

水泳演習の狀況を友に報ず

此の頃の暑さは格別だね、御變りないか、夏蠶も忙しからふ。蟬の聲を聞きながら、涼しい木蔭で晝寝など、しやれてもゐられまいな、僕は聯隊の水泳演習に来てからもう七日になる。僕なんか性來の金槌の御蔭で、演習参加の光榮に浴した譯さ。毎日午前午後の演習で、進歩の跡頗る顯著、今や金槌組の域を脱せんとして居る呵々。全身黒光り金佛様宜しくで、どちらを向いて居るかかわからない様になつた、後七日で、歸るとすぐ富士の裾野の射撃演習に出かける、暑さの折自愛し給へ。

秋季演習出發を父母に報ず

稻の刈り入れ時で、何かと御忙はしい事と御察し申して居ります。併し近年にない豊作との事で、私も喜んで居ります。私事來る三日から埼玉縣地方の秋季演習に出かける事になりました。廿日に歸る豫定ですが、私が入營してから最も長い演習であつて、言はば農家の收穫時期の様なものです。私にとつては此の一年間に鍛へた力を、此の演習で發揮するわけで、これに参加出来るのを大いに喜び又楽しんで居ります。三、四日位づゝ晝夜ぶつ通して演習を續け、中に休養日があつて又演習と云ふ事になるのです。とにかく一年の終末試験を受けるつもりで、大に奮發して好成绩で歸りたいと存じて居ります。何れ演習地から御便り申上げます。

秋季演習地より父母に報ず

三日に兵營を出發して、途中聯隊の演習をしながら、茨城縣石岡町へ來て、一日ゆつくり休養。それから聯隊對抗の演習を、三日ぶつ通してやつて、今朝終了、笠間町に來ました。演習中は、ぬむい、寒いで、かなり疲れましたが宿舎の主人の好意で非常に手厚い待遇を受け、元氣全く恢復しました。今は秋晴れの空に、眞赤になつた柿の實を見上げ、うちの柿の木のことなど思ひ浮べながら、ゆつくり休養して居ります。明日からまた別の演習で、こんどは栃木縣の方に向ふ様です。

此の次の滞在日にまた御便り致します。

秋季演習地より友へ

三日に出發して八日からほんもの、聯隊對抗の演習だ。攻撃、追撃、夜襲、夜間の警戒など三日間晝夜ぶつ通して、疲れはさほどでもないが、ぬむいのは弱つたよ。昨日の朝早く水戸の南で演習を終つた。是れで第一卷の終りさ。太田村の宿舎について一風呂あび、久しぶりに布團の上に大字なりに寝た。處が今朝はけろりと恢復してしまつた、今日は一日ひなたぼつこで、新聞を讀んでる呑氣さだ。明日から旅團對抗の第二卷が初まるが、此の元氣なら矢でも鐵砲でも持つて來いだ。こんどは栃木縣方面に向ふらしい。何れ又一演習終つたら御便りする。刈入れて忙はしからう。

秋季演習地より留營の友へ

正夫君 今度は留營勤務も長いから御苦勞だね、一年一度の秋季演習に、参加出来なかつた事は、君も残念だつたらう、僕も君と一しよに参加するのを楽しみにして居たのだよ、然し之れも勤務だから致し方がない、戦争だつて戦地に行くものもあるし、是非留守隊に残らなければならぬ者もあるのだからね。

今日は聯隊對抗演習を終つて、當地で休養中だ。明日から旅團對抗演習が初まる、中隊は一同非常

な元氣だ、落伍者は一人もない、僕も肉刺を一つこしらへただけで元氣だ、此の分なら終りまで大丈夫だ、安心して呉れ給へ。しつかり留守番頼む。御土産話を澤山持つて歸るから。

留營者より秋季演習地の戦友に

何うだ相變らず元氣か。此のころ毎日のやうに、患者が還つて来るが、話しを聞くと聯隊對抗演習は、大分猛烈だつたさうだね、御苦勞さまだ、元氣でやれ、最後迄頑張れ、中隊はまだ一人も還つたものがないので、留營者まで威張つてる。僕は衛兵専門で、例の上番下番さ。君等の御手柄を楽しみに待つてゐる。班の諸君に宜しく傳へて呉れ給へ。

行軍演習の情況を友に報ず

田植も一段落、今度は養蠶で大忙しだらう、攻撃につぐに追撃で、軍隊と同じだな、呵々。僕去る三日から、神奈川縣地方に出かけたよ。毎日戦闘教練を続けながら、初日は九里、第二日は十里、第三日は八里、第四日十三里と云ふ猛演習ぶりだつたが、肉刺二つの御土産で、無事歸隊した。二晩とも民家に分宿したが、養蠶で猫の手も欲しい様な忙はしい時に、實に鄭重な待遇を受けて、人情の有りがたみをしみじみ感じたよ。僕等の村にも、是迄度々軍隊が宿泊した、其都度在郷軍人の人だちが、東奔西走して世話してゐるあの心持ちが、今度初めて判つた、やはり経験いや體驗はして見るものだね。第三夜は純然たる露營さ、寒くはなし、青天井に月を眺め、蚊のうるさいのは聊か閉口したが、晝の疲れでぐつすり寝込んだ、そして午前一時出發して強行軍で歸隊した。僕のすきだつた君の庭のあのあぢさいも咲いたらう、おぢいさんの御自慢の朝顔の御成績はどう、皆様に宜しく申上げて呉れ。先は演習の狀況御知らせまで。

入院を父母に報ず

御両親様には、御機嫌よく御暮しの事と賀し上げます。私事四五日前から風邪の氣味で、時々寒氣がする位で、別に診斷を受ける氣にもならず、平常通り教練を續けて居りました處、昨朝から身體がだるく、發熱致しましたので、早速軍醫の診斷を受けました。ところが肺炎になる恐れがあるからといふので、午後衛戍病院に入院を命ぜられました。其後醫官及看護兵等の手厚い看護を受けて居りますが、熱が上る様な事もなく、別段氣分にも變りありませんから、決して御心配下さらぬ様願ひます。此の上は醫官の御注意を守つて、専心療養につとめ、一日も早く退院して、中隊に歸りたいものと存じて居ります。こうして手紙を書いて居る位ですから、くれぐれも御心配なき様御願ひ申し上げます。先は御通知まで。

入院を郷里の友に報ず

病院からの便りで一寸きまりが悪い位だが、實は昨日午前營庭で、銃劍術の試合をやつてる中に、石につまづいて右の足關節をいためた。あまり痛むので診斷を受けたところ、午後入院を命ぜられたわけさ。入院後早速レントゲンで檢診していたゞいたが、骨折は全然ない、足關節の捻挫と判明したので僕も安心した。それから色々手當を受けたので痛みはだん／＼軽くなる様だ。元氣は斯くの通り相變らずだから、心配しないで呉れ給へ。二週間もしたら快くなるとの事だ、友人達にあまり吹聴して呉れるなよ。一寸御知らせする。

病氣全快を父母に報ず

入院中はいろ／＼御心配をおかけしまして、誠にすみませんでした、又先日は遠路わざわざ御見舞下さいまして、御親情身にしてみてもありがたく御禮申し上げます。其後経過非常にはかばかしく、今日午前退院致しましたから御安心下さい。當分は劇務を免除され、中隊で休養致す事になりました。私としましては、入院前と別に變りない位になつたと思ふて居りますが、二週間あまり入院の後でもありますから、大事をとつて休養致します。御心配無き様御願ひ致します。伯父様からも御見舞状をいたゞきましたから、退院の御通知と御禮状とを差出して置きました。

先は退院の御知らせまで。

友の病氣を在營の友へ報ず

過日孝三君の病氣の事を一寸御知らせしたが、其の後病床にいたまゝで、どうやら肋膜炎らしいとの事だ。熱の上り下りが不定なので、醫師も頸をかき上げて居る様だ。あの元氣そのものゝ様な孝三君が、病床に呻吟してるとは全く氣の毒に堪へない。昨日見舞に行つたら、顔色はよくないが相變らずの元氣で、今度の徴兵検査までには、是が非でもよくなるんだといふて力んで居た。平生の元氣に拘らず、神妙に醫師の注意を守つて、あこがれの軍服への一路を辿り、療養に努めてる有様には、ほんとに泣かされたよ。御両親たちも、孝一兄さんも、徴兵検査のことばかり心配して、みんな一生懸命看護につとめて居られた。僕達もかわる／＼御見舞に行つて居る。早く快くしてやりたいものだね。

下士官候補者に採用されしを父兄に報ず

過日は誠に手前勝手を御願ひ申し上げました處、早速御快諾下され、その上承諾書まで御送付下され感激の至りに堪へません、御親情身にしてみても難有く御禮申し上げます。それから直ぐ正式に、願書に承諾書を添へて提出し、中隊長殿にも此の趣を申し上げました處、非常に御喜び下され、御激勵

の御詞や有りがたい將來の御注意などを賜はりました。御兩親様初め兄上様達の御厚意に對しても、誓つて初一念を貫徹致す覺悟です。第一期檢閲後から、第一年度下士官候補者として、特別教育を受ける事になります。

先は御禮旁御通知まで。

歳末休暇歸省を父母に報ず

暮も間近く差し迫つて参りました、何程か御忙はしい事と御察し致して居ります。私事廿九日から一月三日迄休暇をいたゞき、歸省する事の御許しが出来ましたから、二十九日午後には歸宅出来る事と存じます。暮の忙はしい處、大いに御手傳い致しますから御待ち下さい。取り急ぎ御通知まで。

轉居を友に報ず

突然だが今度表記の處へ轉居した。省線中野驛下車、驛前通りを北へ三丁花園幼稚園の裏だ。前の四谷の家に較べると、家が新らしく庭が廣い、その上空氣が澄んで居るのが何よりだ、非常にのんびりするよ。此の次の日曜日あたり、遊びに來給へ、然し御馳走はないよ。兄上様にも宜しく。

安着を友に報ず

出發の際は、色々御世話になつて有りがたう、それに錢別まで頂戴して、恐縮して居る。海陸無事

今日午前八時大連に着いた、船には初めての僕にとつて、海路の穩かなのは何よりだつた。やつと旅装を解いたが、大陸に第一步を印して、流石に感慨無量なものがある。堅い決心で、滿蒙の野の活動に取りかゝる。前途を永い目で見て居て呉れ給へ、何れそのうち詳しい事を御知らせする。先は取り敢へず安着の御通知まで。

九 依頼、注文、相談等に關するもの

- 一、依頼の文は用件を明瞭に書く事と、其の用件に就て、先方を煩はすの已むべからざる事情を、鄭重に書き表はすがよいが。哀訴嘆願に終始し、青年男兒の氣魄に欠けるやうな文は、先方の人物の如何によつては、必ずしも好感を與へるものでないといふ事も、考へねばならぬ。然し依頼であるから、何處までも敬意を失はない様に、鄭重に書くべきである。
- 二、相談の文は、斯くやりたいが何うだらう、と書く場合もあるし、或は全くあてなしに、どうしたらよいだらうかと書く場合もあるだらうが、やはり自分の希望、意見を述べて、先方の意見を聞くといふやうに書いた方がよい。
- 三、注文の文は最も簡潔に用件だけ書くべしだ。殊に品物の名稱、數量、價格、代金送付の方法、

屈先等は明瞭に書くがよい。

- 1 知人に除隊後の就職を依頼す
- 2 除隊後の就職に就て父兄に相談す
- 3 除隊土産を父母に相談す
- 4 下士官志願を父母に相談す
- 5 郷里の友に在營中の友の救護を依頼す
- 6 重ねて郷里の友に在營中の友の救護を依頼す
- 7 見本を注文す
- 8 雑誌を注文す
- 9 書籍を注文す
- 10 地圖を注文す
- 11 友に書籍購入を依頼す

知人に除隊後の就職を依頼す

謹啓 冷氣日に相加はり候處益々御清適の段奉大賀候。さて小生事本年十一月末歸休除隊の豫定に有之候處家庭の事情により成るべく速に就職致し度希望にて種々苦慮致し居り候様の次第に御座候。何分財界不況の折柄小生如き鈍物にて今更恐縮至極に存じ候へ共貴社にて御採用方願はれ間敷候哉、勝手ながら給料は貴意に任せ申す可く候。甚だ厚かましく候へ共御参考までに履歷書同封致置候。尙ほ在隊間の成績御入用の節は聯隊宛御要求下され候はゞ聯隊より直接御送附申上ぐる筈に御座候。何卒小生の衷情御酌取りの上宜しく御願ひ申上候。

先ば右御願ひ申し上げたく如斯に御座候。拜具

除隊後の就職に就て父兄に相談す

私事の除隊後の就職に就ては色々御心配に預りましたが、先般も申上げました様に聯隊では前々から除隊兵の就職口を世話して居るのであります、丁度大阪府下の某會社に私にとつて持つて來いの口があり、在郷軍人を大に歓迎するとの事ですから篤と考慮の上、これに決めようかと考へて居ります、會社の基礎も確實なものであり、初給も相當に出すとの事です。皆様の御意見如何でせうか至急御返事下さる様御願ひ申し上げます。

除隊土産を父母に相談す

朝夕大變しのぎよくなりました、御両親様には御機嫌よく御暮しの事と存じ上げます。私の除隊もいよゝ近づいて参りますので、御土産を何にしたらよいか、いろゝ考へて居ります。隊の方からは、土産は全廢する様にとの御注意もあり、又隊から、村長や分會長の方へは、此の旨通知を出してあるとの事ですから、御承知の事と存じますが、村には前例もありますし、私の入營の際、錢別をいたゞいた處も相當多いはずですから、全く廢止すると云ふ事も、如何かと考へられます。昨日此の事に就て、村出身の高石君や、小川君等と相談致しましたが、皆私と同意見で、聯隊名入り

の手拭位てぬぐいぐらゐにしては、といふ事にきまりました。御兩親様ごらうしんさまの御思召ごしめぞしは如何いかでせうか、村むらによりては村長むらぢやうから、全然ぜんぜん廢止はいしする様にと、通知つうちして來てゐる處もある様です。一應いちやう村長むらぢやう、分會長ぶんちやうぢやうとも御相談ごさうだんの上、何分なんぶんの御示ごししを御願ごがねひ致します。

下士官志願を父母に相談す

父上様ちやうさま初めはじめ皆々みなみな様、何時いつも御壯健ごさうけんで結構けいこうです、私事わたくしごと其そのの後ご頑健がんけんで、日々ひび軍務ぐんむに精出せいしゅつして居ゐりますから、御休ごきゅう心しん下ください。

さて先日中隊長ちゆうぢやうぢやう殿だんより、下士官志願かしくわんしきわんの意志いしはないか、入隊にゅうたい以來いらい、學力がくりき、體力たいりき、人格じんかく等を仔細くわんざうに觀察くわんさつして居ゐるが、下士官志願かしくわんしきわんして再服役さいふくやくをすれば、立派りっぱな成績せいせきで進級しんきゅうし得うる見込みこみがあるが如何いかか、と御尋ねごたづねがありましたので、私も暫く猶豫ちゆういを願ねがひ、私の除隊じゆたい後の就職しゅうしふの事ことやら、家の事情いへじやうぢやうなども考へて見、また陸軍りくぐんの制度せいども調べたり、上官じやうくわんに御聞きごきしたりしましたが、私の勉強次第べんきやうしだいで、陸軍士官學校りくぐんしやうかんがくに入學にがくする事も出来るし、將校しやうがうになる事も出来るのですから、私の將來しやうらいの爲ためめ、志願しきわんしたいと存ぞんじます。

家うちの方は三男さんなんの身みであり、除隊じゆたい後は、何うせ御兩親様ごらうしんさまや、兄上様あにやうさま達の御厄介ごやくけいになるばかりですから、隣村りんむら出身しゆしんの高井中尉たかゐちゆうぢやう殿だんの例れいに倣ならひ、思おもひ切きつて志願しきわんをして私の力の及およぶ限り奮勵努力ふんれいどりき致いたして見たいと存ぞんじます、何卒なにとぞ御兩親様ごらうしんさまと、兄上様あにやうさま達の御許ごもとしを願ねがひ度ほどう存ぞんじます。右御願みぎごがねひまで 匆々きうきう。

郷里の友に在營中の友の救護を依頼す

御手紙ごていし拜見はいけんした、工兵隊くわうへいぢやうに居ゐる陽一君やういちくんのお父さんおとうさんが先月來せんげつらいの長病ながびやうひだそうだね、後あとには幼い妹いもうとさん一人ひとりで嘸御困なげりだらう。陽一君やういちくんの心中しんちゆう御察ごさつすると涙なみだが出る、同じく在營中ざいえいちゆうの僕ぼくにとつては全く他人事たにんじの様ように思おもへない、尤も村の人達むらの人たちで援助えんじゆしてゐるから大丈夫だいぢゆうぶだらうが、そう長くも續つづくまいし陽一君やういちくんに長く心配しんぱいさせて置くのも氣きの毒どくだから、此こゝの際さい軍事救護法きんじきうごほふの適用てきようを受ける事ことしたら何うだらう。お父さんおとうさんも陽一君やういちくんも勝氣かちきの人ひとだから、心苦こころくるしいといふかも知れないが、困こまつてゐる入營者にゅうえいしやの家族かぞへに、國家こくがが保護ほごを與あたへ、在營者ざいえいしやに後顧こうごの憂うれひなからしめるのは、當然たうぜんの事ことなのだから、決けつして遠慮えんりょする必要ひつたふはないと思おもふ。此こゝの際さいは是非さいはい其そのの適用てきようを受けて、お父さんおとうさんにも陽一君やういちくんにも安心あんしんさせるのが適當てきとうだと僕は思おもふね。

元來もとより之これは「救護きうごを受けんとするものゝ出願しゅつげんにより云々」と規定きていしてあるのだから、よくこの趣旨しゆしを君きみからお父さんおとうさんに話はなして、納得なつとくさせて呉くれれ給へ、その上うへ村長むらぢやう、分會長ぶんちやうぢやう等らとも相談さうだんして、一日いちにちも早く救護きうごを受ける様よう盡力じんりきを頼たのむ。

訓練所の同窓生一同で御見舞を出す件は僕も大賛成だ。貧弱な俸給の中からだからこれで勘弁して呉れ給へ。

重ねて郷里の友に在營中の友の救護を依頼す

陽一君の留守宅は、軍事救護を受ける事になつたそうだね、君の御盡力深く感謝する。陽一君も安心したらう、然しお父さんは全身不随になつたそうだね、ほんとに御氣の毒だ。軍事救護を受けてそれでも生活が出来ないとすれば現役免除を願ひ出る方法もあるが、陽一君のあの氣象では最後まで頑張るだらう。それでね、軍事救護法は國家がやるのだが、其の外に清浦伯が會長でやつてる、軍人後援會と云ふのがある。雑誌「後援」を出してるから御承知かも知れない、此の方からも生活保護の爲めに一家一年二百圓以内の補助をする筈だから、此の方も願ひ出て見たらどうだらう。村では此の種の先例もない様だから、村長さんあたり御存知ないかも知れない、盡力ついでに此の方も一つ骨折つて見て呉れ給へ。幾らかでもお父さんに心配させない様にして上げたいし、陽一君にも安心して貰ひたいから、宜しく頼むよ。

見本を注文す

貴店專賣持許の改良製繩器は當地方副業用として最も好適のものと存ぜられ候間、此狀着次第見本

として一臺御送附下され度候。代金は爲替券にて同封致置候、尙送料の儀は不明に付き別に御請求に應じ申すべく候。

雑誌を注文す

貴社發行雑誌「日本」一ヶ年分送料共五圓二十八錢別紙爲替券封入致置候間七月分より日送附方御取計ひ下され度候。

書籍を注文す

左記書籍至急御送附相成り度、爲替券同封注文致候。

石川博士著	農業讀本	一部
齋藤文學士著	青年の修養	二部
成文館發行	日本の將來	一部
合計金		

各票金高に相違なきこと必ず確むること

拂込	名所氏	名加入者	番口號座
埼玉縣浦和町三十八番地	※ 澤田武夫	※ 帝國在郷軍人會本部	※ 東京二〇〇七番
印附日廳管所座口	印附日廳管所座口	印附日廳付受	印附日廳付受

※ 一金貳圓六拾七錢也

省信認

書籍を注文する(振替貯金用紙の書き方)

欄	載記文信通
計	一金九拾六錢也「訓練」二分豫約代金 來る五月號より送本願度 一金拾七錢 青年教練研究の參考 豊部 一金壹圓五拾七錢也 特製卷脚絆一組送料共 計 一金貳圓六拾七錢也
欄	右送金に對する品々至急御送り願上ます

地圖を注文す

陸地測量部發行の左記地圖至急御送附下され度爲替券同封注文候。

五萬分ノ一、	何々	何々	計	枚
右各一枚	何々	何々	計	枚
二十萬分ノ一	何々	何々	計	枚
右各二枚	何々	何々	計	枚
合計	何々	何々	計	枚

友に書籍の購入を依頼す

梅雨もあけて、愈々暑さが厳しくやつて來ましたね、御變りないだらう。御商賣何時も繁昌で結構だ。御多忙中甚だ御迷惑だらうが、「軍事學教程」當地の兵書店を捜したが見當らない、是非参考にしたいと思ふて居るのだから、御足勞だが、發行〇〇〇〇で買ひ求めて至急送つて呉れ給へ。十日から野營に出かけるのでそれまでに是非欲しいのだ。

第三編 挨拶の仕方と例

挨拶の仕方

挨拶は個人又は代表者として、會合の席などで述べる場合が、多いのであるから、衆目が自然其の人に集まり、態度が悪かつたり、間違つた語句を使つたりすると、大勢の人から嘲笑され、自分の恥を晒らす事になる。そんな事になると自分一個人の場合とはかく、代表者であると、外の人に對しても誠に申譯ない事になるから、注意しなければならぬ。

さて挨拶の言葉は、如何に組立てたならばよいか、これは手紙の書き方でも述べた様に、挨拶の性質―何の爲めの挨拶か―をよく考へて腹案を立て、充分之を練り、自信を以て述べるやうにしなければならぬ。馴れない人は草稿を認めて反復練習するがよい。

挨拶を述べるに方つては、落ちついて謹嚴な態度で、力強く而も平易に、簡潔に述べるがよい。又其の席と會衆の状態に依つて、長短宜しきを得なければならぬ、くどくしく述べ會衆に嫌氣を起させるのなどは最も適當でない。

手紙の文例に準じて諸君が遭遇しさうな例を掲げてあるから十分に玩味されたい。さすれば一通

りの挨拶に差支なくなるのみならず、豫期しない時に、挨拶を述べなければならぬやうな場合があつても、まごつかないですむ事と信ずる。

- I 青年訓練所卒業式に於ける總代の挨拶
- 2 青年訓練所の入營兵送別茶話會に於ける挨拶
- 3 右同生徒總代の入營兵を送る辭
- 4 訓練所主事の送別式に於ける生徒總代の挨拶
- 5 村の送別會に於ける挨拶 (發起人として入營兵を送る辭。入營兵の答辭)
- 6 除隊兵より中隊長以下幹部に對する挨拶
- 7 初年兵より除隊兵に對する挨拶
- 8 除隊兵より初年兵に對する挨拶
- 9 在郷軍人分會入會式に於ける挨拶
- 10 除隊兵歡迎會に於ける除隊兵の挨拶
- 11 在郷軍人分會入會式に於ける分會長の挨拶

青年訓練所卒業式に於ける總代の挨拶

主事先生初め指導員の先生方に御挨拶申し上げます。私共二十名のもの當訓練所に入所致しましてから滿四ヶ年、本日茲に打揃つて卒業の榮を得ました事は、偏に先生方の御懇切なる御指導、御鞭撻の賜物と厚く御禮を申し上げます。私共はこれから現役兵として入營するものもあり、其の選に洩れて家業を續けるものもありますが、平素の先生方の御教訓を深く體し、當訓練所に於て鍛えた精神と、體力を以て各々其の職に勉勵し青年としての任を全うし、以て御鴻恩の萬分に酬いた

いと期して居ります。今後共相變らず御指導御誘掖の程偏に御願ひ致します。

青年訓練所の入營兵送別茶話會に於ける挨拶

只今は主事先生から過分の御賞詞と御激勵の御言葉を頂戴致しまして誠に感激に堪へません。私共は過去四年間先生方から御懇篤なる御指導を賜はり、幸にも當訓練所の卒業生たる光榮を擔ふことを得ました。夫々入營する部隊は違ひますが、入營の上は當訓練所卒業生たる面目を保ち之を念頭から放さぬ様に心がけ、専心軍務に努力し、帝國軍人たるの自分を完うする覺悟であります。どうか此の上ともに御指導、御鞭撻を賜ります様御願ひ申し上げます。本日は私共の爲めに特に此會を御催し下さいました御芳情に對し厚く御禮申し上げます。

終りに先生方の御健康と、當訓練所の發展を祈り上げます。

青年訓練所の入營兵送別茶話會に於ける生徒總代の入營兵を送るの辭

私共の先輩として、長きは三年、短かきも一年の間、兄弟も只ならぬ御懇情と、御指導を辱ふしました先輩三名の方が、選ばれて名譽ある帝國軍人として、御入營になる事は、我が訓練所の名譽なるのみならず、引いては後輩たる私共の大きい名譽とし、また誇りとする處であります。御入營の

上は充分御健康に御注意あつて、軍務に御精勵の上、立派な軍人となられ、私共を御指導下さる事を偏に御願ひ申し上げます。

御別れに臨みまして、各位の御健康と御發展を祈り上げますと共に、從來の御厚誼に對し御禮申し上げます。

訓練所主事の送別式に於ける生徒總代の挨拶

主事先生には、當訓練所創立以來、校務御繁忙であらせらるゝに拘らず、訓練所發展の爲めに日夜御盡力下さいまして、殊に生徒と苦樂を共にし、身を以て私共を導いて下さいました點は、終生私共の腦裏から去る事の出来ないものでありまして、今更ながら先生の御恩の鴻大なるに感激して居る次第であります。

今先生に御別れする事は、私共にとつて忍び難いものがありますが、先生におかせられては非常な御榮轉であります。私共は此の御別れの悲しみをおさへて、心から先生の御榮轉を祝福致すものであります。私共は先生によつて築き上げられたる、當訓練所の基礎の上に、一同心を一つにし力を合せ勵み合ひ、助けあひ、力一ぱいに活動をして當訓練所を愈々益々隆盛ならしめ、以て先生の御鴻恩の萬分に酬ゆる事を期して居ります。どうか今後共御指導御後援下さる様御願ひ申し上げます。

終りに先生の御健康と御多幸を祈り上げます。

村の送別會に於ける挨拶

一 發起人として入營兵を送る辭

今夕は山田、中川、小山三君の御入營につきまして、聊か祝意を表する意味に於て、此の粗宴を催しました。然るに斯くも多數の御賛同を得ました事は、發起人一同の感謝に堪へないところであります。

三君が國民の最大義務たる兵役に服し、護國の大任を其の双肩に擔はれる事は、男子として此の上ない名譽であり、又御本人に於かれても欣快とせらるゝ處であると存じます。

三君は何れも當村訓練所の御出身であります。在所中は熱心に訓練を受けられ、何れも優秀なる御成績を以て御卒業になつたのでありますから、御入營の上はまた必ず拔群の成績を挙げられ、天晴れ帝國軍人としての本分を完全に御盡しになる事と信じ、之を期待して居ます。

どうか將來充分健康に注意せられ、軍務に御勉勵あつて他日錦を着て御歸村あらん事を切に祈る次第であります。

聊か蕪辭を述べて祝辭と致します。

二 入營兵の答辭

御多忙中に拘らず、不肖等入營につきまして、斯くも盛大な送別の変を御開き下さいましたのみならず、只今は過分の御言葉を頂戴致しまして、一同身に餘る光榮と存じ深く感激致しますと共に、愈々責任の重且つ大なるを痛感するものであります。一同は何れも非才の身でありまして、果して此の大任を全うし得るや否や甚だ疑問であります。御互に勵まし合ひ、協力し合ひ、粉骨碎身軍務に奮勵し、皆様の御期待に副ひたいと存じます。何卒此の上とも御後援下さる様、偏に御願ひ申し上げます。茲に謹んで御禮を申し上げます。

除隊兵より中隊長以下幹部に對する挨拶

除隊兵一同に代つて御挨拶申し上げます。伊藤外三十名のもの本日無事除隊する事の出來ますのは中隊長殿初め中隊附各官の御懇切なる御指導の賜物でありまして、一同の感激に堪へないところであります。一同はこれから多難なる社會に飛び出し、奮闘致すのでありますが、在隊間修得しました軍人精神と、旺盛なる體力、氣力を以てしましたならば如何なる難局も打開し得ると確信して居ります。歸郷致しましても在隊間の御教訓を遵奉し、在郷軍人としての本分を盡す覺悟であります。茲に謹んで御禮を申し上げ併せて中隊長殿初め各官の御健康を御祈り致します。

初年兵より除隊兵に對する挨拶

本日無事御退營、錦を着て故郷に御歸りになる皆様の御喜び、如何ばかりかと御察し申し上げ、茲に一同満腔の祝意を表します。私共初年兵が入營以來、御懇切なる御指導と御誘掖を頂きまして誠に有り難うございました。厚く御禮申し上げます。皆様の御歸りの後は、皆様によつて築かれた當中隊の名譽を、益々發揚する様に軍務に精勵して、皆様の御恩に酬いたいと存じます。終に皆様の御健康と御發展を御祈り致します。

除隊兵より初年兵に對する挨拶

只今は御鄭重な御挨拶で却て恐縮致します。私共二年兵として、又兄分として誠に不行届でありましたにも拘らず、諸君からは色々御懇情を頂き、御蔭で愉快に軍務に従事する事が出来まして、眞に有りがたうございました。どうか將來益々諸勤務に奮勵せられ、一致團結して一層中隊の名譽を發揚せられる事を祈つて止みません。終に諸君の御健康を祈ります。

在郷軍人分會入會式に於ける挨拶

私共兩名在營間大過なく、今回無事歸郷致す事が出来ましたのは、一に先輩各位の入營前の御教訓

と在隊中の熱誠なる御後援、御鞭撻の賜物でありまして、感謝に堪へない處であります。茲に厚く御禮申し上げます。

これからは分會の一員と致しまして、皆様の驥尾に附し、分會や訓練所の仕事に微力を捧げたいと存じます。全くの世間知らずの者でございますから、宜しく御指導、御誘掖下さる様、御願ひ申し上げます。

除隊兵歓迎會に於ける除隊兵の挨拶

除隊者一同に代つて御挨拶申し上げます。私共在營中は皆様方より熱誠なる御後援を賜りましたことを厚く御禮申上ります。それにも拘らず、何れも平々凡々、單に在營期間を終へて、歸郷したと云ふに過ぎないのでありまして、皆様方の御期待に副ひ得なかつた事は、慚愧に堪へません。處が本日は斯く盛大な歓迎會を御開き下され、過分の御言葉まで頂きまして、何とも御禮の申し上げ様もございません。今後は専心家業を勵み、在郷軍人としての本分を盡し、皆様の御厚意に報りたいと存じて居ります。何分世間見ずの者ばかりでございますから、宜しく御指導御誘掖下さる様御願ひ申し上げます。茲に謹んで御禮を申し上げます。

在郷軍人分會入會式に於ける分會長の挨拶

山本、佐川兩君には此の度目出度除隊せられ、下士官適任證書、善行證書等の名譽を擔つて、錦を故郷に飾られました事は、御兩家の方々並に御兩君の御喜びは申すに及ばず、吾々分會員一同の大に喜びとする處であります。斯る優秀なる新進氣鋭の兩君を、當分會に迎へる事は、吾々分會員の名譽であり又誇りであります。兩君は最新の軍事智識を、修得して居られる事でありますから、之れを分會員並に訓練所生徒に普及徹底せしめ、國防思想の向上と、當分會の發展に御盡力くださる事を切に希望致します。一言述べて兩君の歡迎の辭と致します。

第四編 禮儀と作法

禮儀作法

世間では禮儀作法を、如何にも窮屈なものゝ様に考へて居る人も少くない、それは其の形だけを見て其の精神を理解して居ないからである。

禮儀の精神は、人を樂しましめ、人に便利を與へ、人を満足せしむるにある。人に愉快と便利と満足とを與へやうとするのには、人の爲めに奉仕する貴い精神がなければならぬ。即ちこの犠牲的精神こそ禮儀作法の根本である。

作法は、吾々の日常生活を、正しく實行するといふ事に外ならぬ。作法は吾々の日常生活と、不即不離のものであり日常生活そのものが即作法でなければならぬ。作法を一種の藝術視して居る如きは、誤りも亦甚しいと言はなければならぬ。吾々の行住坐臥、すべて之れ作法でないものはなし。

吾々が社會生活の上から、禮儀作法といふものを取り去つたら、如何であらうか。公德心、公衆作法等は決して行はるゝものでない。之が行はれない社會は、社會の秩序は保てない。従つて社會

の人々が、愉快に生活する事が出来なくなる。個人の交際でも同様である。禮儀作法に缺けて居たならば、必ずや永く圓滿な交際を續けて行く事は望まれない。それ故社會が發達して、人と人との關係が、複雑繁多になればなるほど、禮儀作法の必要が感ぜられるのである。

何處の國でも、其の國特有の禮儀があり、作法はあるが、其の精神に於ては決して異なるものではない。然し其の形式は、社會狀態の進化に伴はなければならぬ。であるから今日の作法必ずしも明日の作法ではない。故に吾々は、現代の生活に適應した禮儀、作法を心得て置く必要がある。殊に現代國民に缺乏して居る公德心を養成し、公衆作法を普く徹底させる爲めには、禮儀作法の精神を體得するのが最も必要であることを痛感する。

軍人及び青年諸君は國家の中堅である。此の中堅たる人々によつて、禮儀作法の精神を體得され發揮されたならば、獨り諸君の人格向上に資する處大なるばかりでなく、國家社會の爲めに寄與する所蓋し甚大なるものがあるであらう。

皇室及國家に對する作法

一、國民が誠意をこめて祝賀すべき國家の祝祭日、記念日等の意義、奉祝の方法等を知得して居ないのは國民としての恥である。

二、宮城、御所御陵等の前を通過する際は、謹んで敬意を表し奉るべきである。

三、神社佛閣の寶物殿、記念館等で、皇室、皇族の御物等を拜觀する時は、相當の敬意を表しなければならぬ。喫煙しながらとか、帽子を冠つたまゝなどは失禮にあたる。

四、至尊又は皇族等の御尊影、或は記事等のある書冊類を取り扱ふときは、鄭重でなければならぬ。

五、事皇室に關する談話では敬語、敬稱を誤らない様にすることが必要である。

六、御眞影を奉掲する時は正面に向つて左に 天皇陛下 右に 皇后陛下となるやうにしなければならぬ。

七、祝祭日に國旗を掲揚する場合には、竿球と旗布との間をあげないやうにしなければならぬ。

八、弔意を表する場合には、竿球を黒布で被ひ、竿球と旗布との間をあげる様にする。

九、國旗を掲揚するのは、國家の祝祭日か、皇室、國家に關係ある場合であるから、個人の祝ひに用ゐたり、商店の開業祝ひに用ゐたりしてはならぬ。

服装及び容儀

服装容儀は、一見して其の人の人格風采を表するものであるから、端正で且つ其の分に應じて、

質素でなければならぬ。又頭髮、髭などもよく整へ、指の爪なども短かく剪除して置くべきで、苟も人に不快な感じを起さしめるやうな事がないやうに、注意しなければならぬ。尙其他に注意すべき件二三を左に述べる。

- 一、服装が身分不相應に華美に流れたり、香油や香水などをこて／＼振りまいて、得意がつて居る様なのは、青年として寧ろ唾棄すべきである。
- 二、帽子は人目を引くものであるから、質素で服装とよくつり合ふものがよい。中折帽や麥稈帽の如き、中帯のあるものを冠るときは、結び目が必ず左になるやうに、注意しなければならぬ。
- 三、シャツの汚れは殊更人目につくものであり、不快の感を起さしめるから、和洋服の場合共注意しなければならぬ。靴下の汚れは兎角等閑になり勝ちのものであるから此れも氣をつけるがよい。
- 四、靴はつとめて磨いて穿くがよい。
- 五、和服を着た場合には、親しい朋友の間柄でもなければ、成るべく足袋を用ゐた方がよい。

二 敬 禮

一、目上の人を尊敬し、之に對し相當の敬意を表する事は、禮儀の國民たる日本人として當然の事である。敬禮は恭敬を主として、行ふべきもので、あまりに謙讓に過ぎるものや、或はあまりに謙讓過ぎて諂になる如きは共に適當でなく、姿勢、態度、毅然として侵すべからざるものでなければならぬ。

二、軍人が軍服を着用した場合は、陸海軍禮式の規定に基づいて行ふべきだが、其の場合には、やはり現代に適應するやうな、日本の禮式に據るのが適當である。何もかも西洋風にかぶれ、新しがる必要はない。

1 拜 禮

一、神前で參拜するには先づ手水をつかひ、神前に進みて一拜し、次に嚴肅な態度で最敬禮をなすべきである。

玉串を捧げる時は、之を右手に持ち左手を添へて神前に進み、一拜し、玉串の向きを直し其の方が神前に向くやうに、案上に供するものである。

又拍手するときは一、二と二度づゝ二回又は一回打つのがよい、一、二、三と打つてはいけな

二、佛前では神前と同様に一拜し、次に焼香し、後更に一拜するがよい。和服の時は焼香の後合掌拜禮するのが正式である。

焼香は静かに右手を以て香を撮み、三回又は二回香爐に燻すればよい。

2 立禮と座禮

一、立禮は和洋服の場合とも、現時行はれて居る様に、上體を前に曲げ、兩手を膝の前に垂れる方法でよい。

二、普通の座禮は、先づ正座の姿勢を取り、先方の眼に注目し、臂を張らぬやうにして手の指を揃へ、兩手を膝前に八字形に置き、指先の間を二三寸位はなし、静かに上體を曲げ、頭は座面より二三寸の處まで下げるのが適當である。後静かに舊位に復する。

三 座作進退

1 日本室

一、人の居室に入らうとする時は、一應挨拶して應答を待つのが禮である。

二、障子、襖は通常立ちながら腰を屈けて開閉してよいが、特に丁寧にする場合は跪いて行ふのがよい。

三、障子、襖の類は、出入の際、開放されてある場合は、其のまゝでよいが、閉めてあつた場合には、必ず閉めておくのが禮である。

數人續いて入るやうな場合には、最後の人が之れを閉づべきである。

四、着座するには、軍服洋服の場合には、ズボンを一寸つまみ少し引き上げ、又和服で袴をつけて居た場合には、兩側から兩手を袴の内の方に入れて、膝部に若干の餘裕を作つて置くがよい。

五、正座は端正にして威容ある事が要だ。其法、上體を正しく保ち、兩膝を稍々開いて、腹の部に力を入れ、兩手は膝の上に置く。

六、主人より安座の挨拶があつた時は之に従つてよい。

2 西洋室

一、人の居室に入らうとする時は、コック／＼と二三回戸を叩き、應答を待つのが禮である。

二、戸を開閉するには静かに把手を廻し、成るべく音を立てない様に、氣をつけなければならぬ。

三、人と相對して腰を掛けた場合には、脚は組まない様に注意すべきである。

四 喫煙

一、喫煙は之れを嗜む人もあるし、之を嫌ふ人もあるのであるから、會合の席などでは努めて慎むがよい。

二、特に喫煙所の設けがあるときは、其場所外で喫煙してはいけない。

三、目上の人と同席する様な場合には、成るべく自分から先に喫煙しないやうに、氣をつけた方がよい。

四、宴會の席などでは、主人或は幹事等から、喫煙の挨拶あるまで、喫煙しないのが禮である。

五、訪問の際など、主人から煙草をすゝめられた時は、其の中の一冊を取り、數本同時に取るものでない。又マッチに點火してすゝめられた時は、禮を述べて其マッチを取り、自分で火をつけるのがよい。

六、歐米各國の風習は、婦人の前や同席の場所で、喫煙するのは無禮であるとされて居る。

五 談 話

一、人と談話する時には、辭氣を穩かに、相手に對し相當の敬意を失はない様に、注意する事が必要である。

二、自分だけ續けて話したり、人の話中を、途中で遮ぎつたりする事は、共に禮でない。

三、話題は、相手の年齢及境遇等に相應した材料を、選んだ方がよい。

四、多人數に對しては、成るべく全體に亘るやうに注意し、少數の人にのみ専らにする如きは適當でない。

五、自分の職業上の事とか、自分の好む處の事ばかり話すのは、職の違ふ人や、趣味の同じでない人に倦厭を覺えさせるから、注意しなければならぬ。

六、集會の席で、自分だけが談話を占有したり、他人の談話の途中に喙を客れたりするのは、禮でない。

七、談話中の洒落、滑稽など時に取りて座興を添ふる事もあるが、うつかりすると誤解されたり、又は不快の感を起させることもあるから、細心の注意が必要だ。何れにしてもやるなら上品な處をやるべしだ。

八、對話中に頭や顔を撫でたり、屢々時計を見たり、手足や身體をむやみに動かしたり、室内をきよろく見廻したり、欠伸をしたりするのは無作法である。

六 訪問及名刺

一、訪問には、特に親密の間柄でなければ、名刺を呈するのが禮である。

二、普通の訪問では、會談時間はあまり長くない様に注意しなければならぬ。主人が他出しようとして居る時とか、其の家が來客で取り込んで居る時などは、其の場から辭するが良い。用事があつて訪問した時は、成るべく速に其の用件を述べたがよい。

三、訪問は成るべく食事の時刻に涉らない時間がよい。但し近親の間柄とか、前以て時刻を約束してある時は此の限りでない。

又特に親しい間柄でなければ、朝食前とか夜遅くは避けた方がよい。

四、訪問して座敷に案内された時は、稍々下座に座して、主人の來るのを待つがよい、主人が出て來たならば、稍々下の位置で挨拶を爲し、其の薦めを待つて、座蒲團を使用した方がよい。

五、訪問した者が、主人の面接を待つ間、みだりに座蒲團を用ゐたり、室内をぶら／＼歩いたり、或は椅子に就いたり、煙草を喫ふ如きは禮でない。

六、主人と對話中更に他の訪問客があつたときは、座を下り、或は椅子を離れて目禮し、然る後舊位置に復するか、又は訪問客が己より長上の人であつたならば、座を譲つて下位に移るのが禮である。

自分が訪問した時他の客が居つたならば、先づ主人に禮をして後、客にも禮をするがよい。

七、訪問したものが退去しやうとする時は、時機を見計らつて座を下り、下位に移るか、椅子を離れて立ち挨拶をなし、更に玄關で簡単に挨拶をなし、屋外に出て外套を着るがよい。若し之を着る事をすゝめられた時は一禮の後之に従つてよい。

八、主人が玄關まで送り出やうとする時は、一應辭退した方がよい。

九、初めて會つた人に名刺を出される事がある。その時はこちらも名刺を出して答ふるのが禮である。

一〇、結婚、誕生、榮進を祝する爲の訪問は、通例通知を受けた後遅くも一週間以内に行ふがよい。

一一、病人若しくは災害に罹りたる家を見舞ふ時は、強て面會を求めてはいけない。たとひ面會しても、長座しないやうに氣をつけなければならぬ。

一二、弔問は特に懇意な間柄でなければ、通例取次人に名刺を託して辭し去るがよい。

饗宴

一 招待並に應答

一、凡て招待状を受けた時は、必ず諾否の返事を出すべきである。

二、招待に對し出席の旨回答した時は、決して約を違へてはならぬ。回答した後で、事故の爲めに出席不可能となつた場合には、豫め其の旨を斷るのが禮である。

二 答禮

一、招待を受けて宴席に列した時は、當日より七日以内に答禮の訪問をするのが禮である。此の場

合には、面會を求める事なく、名刺のみを置いて歸るがよい。

二、親しい間柄での食事等の返禮は行はないでもよい。

三 宴席の禮

一、招待の定時は必ず違はないやうに、氣を附けて出席しなければならぬ。

卅分以上早きも、五分以上遅るゝも共に失禮である。定時五分乃至十分位前が丁度適當である。

二、席上では耳語したり、手を以て齒を弄つたり、他人に見ゆる様に小揚子を使用したりする事は慎まねばならぬ。

三、食事中は妄りに席を離れてはならぬ。已むを得ない場合には隣席の人にのみ告げて、密かに席を去るがよい。

四、食事の禮は、和洋の種類により各々其の方法が違ふが、溫雅端正で、粗野、輕佻な處のないやうにせねばならぬ。

五、總て食物は、其の品質を知らないで手を着けると、後から困る事がある、各種の食品は悉く食はないでも、決して失禮にあたらぬ。之に反して一たび手を着けた食品を嫌つて、半分で食はない事になると、失禮になるから、注意しなければならぬ。

六、退散は自分より目上の方が居つたら、其の人の去るを待つて辭するのが禮である。若し已むを得ず先に歸らなければならぬやうな時は、之を隱密にするがよい。

賀儀葬祭

一 賀儀

一、出産、結婚、壽賀等の慶事ありて披露を受け、又は親戚、先輩、知人の昇進、榮轉などの場合は、祝意を表する爲めに、遅くも七日以内に、相當の服裝にて訪問をなし、又は鄭重なる賀狀を贈るのが禮である。

二、祝宴などに招かれた際は、特に不吉の言動を慎むがよい。

三、新年の回禮は、三ケ日内に行ふがよい。懇意な家の外は、座敷に通らずに、名刺を名刺受に入れて、祝意を表すればよい。遠隔した土地に居る、親戚、恩師、先輩、友人等には賀狀を出すべきである。

二 葬祭

一、親戚其他知人の家に不幸あるときは、速かに弔詞を述べるがよい。格別親密の間柄でなければ玄關で取次ぎの人に弔意を述べて、喪主或は家族に面會を求めない方がよい。遠く離れて訃音に

接した時は、すぐに電報又は郵便で弔意を表すべきである。

二、會葬するには、成るべく出棺前に其の宅に行つて氏名を通じた方がよい。葬列に加はる時は、謹慎を旨とし、談笑するなどは宜しくない、又式場では極めて靜肅でなければならぬ。

三、會葬の往復の途中、他家を訪問するのは失禮である。

四、自家の喪中には額、掛物、室内の裝飾は取除くがよい。又弔問者の氏名は悉く記して置いて、答禮の時の控としなければならぬ。

船車内及旅館等に於いて公衆に接する時の心得

一、汽車、汽船、電車、自動車其の他の乗合物に於いては、各々きめてある規定を守る事は勿論、他人に禮を失する事のないやうに、注意しなければならぬ。自分の便宜のみを計り、他人の迷惑を省みないやうな事が決してあつてはならぬ。たとへば自分丈けが座席を廣く占むるが如き、荷物や腰掛の上に置くが如き、飲食物の残滓を撒き散らすが如き、床上に唾を吐くが如き、他人の迷惑となる事や、他人に不快の感を起させるやうな事は、大に慎まねばならぬ。

二、旅館とか温泉宿などでも、隣客が互に妨害しないやうに、又お互に不快の思ひをしないですむやうに、心懸くべきである。彼の放歌、高吟するが如き、夜遅くまで談笑して、隣客に迷惑を及

し、又は安眠を妨げるやうな行動は深く慎まねばならぬ。

贈 答

一、贈答は、相互の誠意、真情の發露として、行はれるのが禮である。故に人に物を送る場合には誠意を表はすを旨とし、其の品物は自分の身分に相當したものを選ぶべきである。

二、贈物は、高價な物料鄭重だと心得るのは誤りである。

三、理由なく屢々贈り物をするのは非禮である。贈る場合は目的理由が明かであればならぬ。然し最も親しい間柄ではまた別である。

四、如何に簡單を尙ぶ現代でも、人に進物をするのに包装をしなかつたり、水引もかけなかつたり又は鬚斗もつけない様なのは禮でない。

五、贈り物を受けた場合、風呂敷、袱紗などを返すときは、移しを入れて返すが、我國古來の慣例である。これは交際を長く續けると云ふ意味である。移しとして返す品物は、地方の慣習によつて違ふが、通常は白紙、マツチなどを用ゐる。

結婚祝の贈物、凶事の場合などは、移しを入れないのが普通である。

六、贈物を小包郵便又は鐵道便などで送る場合には、必ず送つたといふ書狀を差出すべきで、品物

だけでは失禮である。

七、贈物を受取つた場合には、成る可く早く受取つたといふ禮狀を差出さなければならぬ。

八、贈物に表記を認めなかつたり、又は適當でない認め方をしたりしては失禮である。

九、表記は其の贈るべき場合、目的によつて夫々相當の意志を表はすやうに書かなければならないが、大體左記のものを標準として書いたら間違ひない。

吉事の場合 御祝、御祝儀、壽、

凶事の場合 一般的に、御靈前、御花料、神式に、御玉串料、御神前。

佛式に、御佛前、御香奠、御香料。

慰問の場合 御見舞。

謝禮の場合 御禮、薄謝、寸志、謝儀。

其他の場合 御中元、御歳暮、御年玉、御年賀、御餞別、御土産、粗品。

一〇、表には自分の氏名を認めるがよい。又氏名を認める代りに自分の名刺を添へてもよい。

第五編 郵便電報に関する智識

第一章 郵便

郵便に関する智識は、一般に普及されてゐない感がある。封書や「はがき」にはいくら切手を貼付したならばよいかといふ位な事は、誰にでも知られて居るが、さてどんなものが開封してよいか、開封の時は何グラム迄何錢で行くのかを知らない爲めに、餘分な切手を貼つたり、開封しなかつた爲めに、不足料金を取られたりする事がある。自分が損をするのは我慢するとしても、そのため先方に迷惑をかける事がある。

又自分の家に現在居ない人に宛てた手紙を、配達された様な場合に、轉送に関する事を知つて居ると、無料で轉送出来るものを、知らないとわざ／＼料金を出して、轉送するといふ事になる。

こんなのはほんの一例だが、社會が日に増し忙しくなるに従つて、郵便を扱ふ機會がますます多くなるから、郵便に関する事は一通り心得て置くがよい。

第一 通常郵便の種類と料金

第三 内國郵便物重量、容積の制限

區別	容積	重量
小包郵便	長 六〇センチメートル以内 幅 各一尺九寸八分以内 厚 各一尺九寸八分以内 幅及厚各一五〇センチメートル(四寸九分五厘)以内のもの長九〇センチメートル(二尺九寸七分)迄	第一種 制限なし 第三種乃至(商品見本及)一、一キログラム以内 第五種 (錐形を除く)二、九三三分以内 商品見本及錐形 三、五〇キログラム以内 九三三分以内 六キログラム(一貫六〇〇匁)以内 速達郵便に限り二キログラム(五三三匁)以内
通常郵便	長 四〇センチメートル以内 幅 一尺三寸二分以内 厚 二五センチメートル以内 幅 八寸二分五厘以内 厚 一五センチメートル以内 幅 四寸九分五厘以内	第一種 制限なし 第三種乃至(商品見本及)一、一キログラム以内 第五種 (錐形を除く)二、九三三分以内 商品見本及錐形 三、五〇キログラム以内 九三三分以内

第四 特殊郵便の種類と料金

郵		殊		特		區別	料	金
航	種	留	内	代	價			
有封書状	類	置郵便	容証明	金引換料	格表記料	書留郵便料(通常郵便物に限る)		
一五グラム(四匁)迄毎に	重	速達郵便は現在東京市内、横濱市内、東京、横濱間、大阪市内、京都市内、大阪、京都間、東京、大森、横濱間、大阪、京都、大阪、神戸間、但し二組以上同一差出人より同一受取人に宛て差出す時は一個の外は其の半額とす	(内容の文書を何年何月何日差出したに相違ないといふ証明) 一枚以上は一枚を増す毎に	差出の際要求するもの 差出後要求するもの	(書留郵便物の料金より普通郵便料金を差引きたる金額の外) 通貨 十圓迄毎に 物品 十圓迄毎に	一〇銭	一〇銭	一〇銭
内地相互間	量	速達郵便は現在東京市内、横濱市内、東京、横濱間、大阪市内、京都市内、大阪、京都間、東京、大森、横濱間、大阪、京都、大阪、神戸間、但し二組以上同一差出人より同一受取人に宛て差出す時は一個の外は其の半額とす	一枚以上は一枚を増す毎に	差出の際要求するもの 差出後要求するもの	(書留郵便物の料金より普通郵便料金を差引きたる金額の外) 通貨 十圓迄毎に 物品 十圓迄毎に	一〇銭	一〇銭	一〇銭
一五銭		速達郵便は現在東京市内、横濱市内、東京、横濱間、大阪市内、京都市内、大阪、京都間、東京、大森、横濱間、大阪、京都、大阪、神戸間、但し二組以上同一差出人より同一受取人に宛て差出す時は一個の外は其の半額とす	一枚以上は一枚を増す毎に	差出の際要求するもの 差出後要求するもの	(書留郵便物の料金より普通郵便料金を差引きたる金額の外) 通貨 十圓迄毎に 物品 十圓迄毎に	一〇銭	一〇銭	一〇銭
内地、朝鮮及 關東廳管内		速達郵便は現在東京市内、横濱市内、東京、横濱間、大阪市内、京都市内、大阪、京都間、東京、大森、横濱間、大阪、京都、大阪、神戸間、但し二組以上同一差出人より同一受取人に宛て差出す時は一個の外は其の半額とす	一枚以上は一枚を増す毎に	差出の際要求するもの 差出後要求するもの	(書留郵便物の料金より普通郵便料金を差引きたる金額の外) 通貨 十圓迄毎に 物品 十圓迄毎に	一〇銭	一〇銭	一〇銭
三〇銭		速達郵便は現在東京市内、横濱市内、東京、横濱間、大阪市内、京都市内、大阪、京都間、東京、大森、横濱間、大阪、京都、大阪、神戸間、但し二組以上同一差出人より同一受取人に宛て差出す時は一個の外は其の半額とす	一枚以上は一枚を増す毎に	差出の際要求するもの 差出後要求するもの	(書留郵便物の料金より普通郵便料金を差引きたる金額の外) 通貨 十圓迄毎に 物品 十圓迄毎に	一〇銭	一〇銭	一〇銭

便		郵		空	
無封書狀	三五グラム(九分三分)迄毎に	一五錢	三〇錢	封緘はがき	往復はがき
通常はがき	往復はがき 往復各別に	一五錢	三〇錢	往復はがき	往復はがき
第三種第四種	七五グラム(二〇分)迄毎に	七錢	一五錢	第三種	第四種
第五種	一キログラム(二六分)迄 以上五〇〇グラム(一三三分)迄毎に	二五錢	五〇錢	第五種	
小包	以上五〇〇グラム(一三三分)迄毎に	五〇錢	一〇圓	小包	

航空郵便は内地相互間と臺灣、南洋、朝鮮、滿洲に限り受け付けて居る。

航空路

東京—大阪間 毎日二往復
 大阪—高松—松山間 同一往復
 大阪—福岡間 同一往復
 外に下り火、木、土 上り月、水、金、各一回
 蔚山—京城—平壤—大連間

一 航空郵便に就て

下り火、木、土 上り月、水、金、各一回

投函法

航空郵便には其の表面に「航空」と朱書するか又は之れを書いた票符を貼付しなければならぬ、
 として郵便局窓口か若しくは空色のポストに出す事が必要である。
 現在航空郵便切手として左の種類のものが發賣されて居る。

- 八錢五厘 (内地相互間私製はがき用) 十八錢 (同上書狀用)
- 十六錢五厘 (内地と鮮滿連絡私製はがき用) 三十三錢 (同上書狀用)

第五 郵便電信爲替及振替

種類	金額まで	通常爲替	電信爲替	特定電信爲替	小額爲替	料	振替	料
二十圓	二十五錢	十五錢	五十錢	七十錢	一圓まで	三錢	一圓まで	二錢
五十圓	二十五錢	二十五錢	七十錢	一圓	一圓まで	三錢	五圓まで	四錢
百圓	三十五錢	三十五錢	九十錢	一圓卅錢	五圓まで	五錢	十圓まで	六錢
百五十圓	四十五錢	四十五錢	一圓十錢	一圓六十錢	五圓まで	五錢	五十圓まで	八錢

二百圓	五十五錢	一圓廿錢	一圓九十錢	十圓 まで	七錢	百圓まで	十錢
二百五十圓	六十五錢	一圓五十錢	二圓廿錢	十五圓 まで	十錢	五百圓まで	十五錢
三百圓	七十五錢	一圓七十錢	二圓五十錢	二十圓 まで	十三錢	千圓まで	二十錢
三百五十圓		一圓九十錢	二圓八十錢			千圓を超過するとき	
四百圓		二圓十錢	三圓十錢			は其の超過額千圓迄	
四百五十圓		二圓三十錢	三圓四十錢			毎に五錢を加ふ	
五百圓		二圓五十錢	三圓七十錢				

振替口座に就て

所定の振替用紙には、通信文も書き込める様になつて居るし、料金も安いし、到着も確かといふ便利があるから、書籍注文などの送金、保険料の拂込等、利用の道は廣い、それで先方が振替口座に加入して居る處であれば、成るべく之を利用したがい。

第二章 電 報

電報には普通、照校（ムニ）至急（ウナ）至急照校、追尾、等種々あるが通常は普通電報、至急電報の二つであらう。

返信を要求するとき、返信料を發信人の方で豫め出して、打電する方法もある、此の場合には、返信豫想の數字に應じた料金の外に、更に五錢を餘分に拂込む必要がある。

電報文の綴り方及文例は本章の後段を参照されたい。

一 電 報 料 金

字数	區分		料 金	内地・小笠原・臺灣・樺太・朝鮮・滿洲間	
	内 國	普 通		普 通	急 急
十五字迄	三十錢	九十二錢	四十錢	一圓二十錢	

右は十五字迄の料金であるから、五字を増す毎に、普通電報では五錢を、至急電報では十五錢を増す事になる。

電 報

電報に用ゐる文字と數字

電報に用ゐる文字と數字は左記のものに限られてゐる。

假名は 片假名

數字は 一、二、三、四、五、六、七、八、九、〇、

電報認め方の注意

- 一、電報は最も急を要する場合に用ひられるものであるから、用件がはつきり判るやうに、而も簡潔でなければならぬ。然しながら過度に省略して、不明瞭となり、問ひ返す様なことでは、却つて遅くなつて、電報の用をなさなくなるから此の點も注意しなければならぬ。
- 二、受信人の居住姓名は、正しく片假名で書く、若し間違ひ易いと思ふ時は、本字で書いて側に片假名を振つてもよい。
- 三、發信人を知らせやうと思ふ時は、本文の終りに姓名か、或は姓か名だけを書けばよい。
- 四、濁點又は半濁點の字がある時は、その下の一字分を明けること、ば、びの如きは二字に算へるからである。

電 報 紙									
送 信 通 過 番 號									
者校照	信 送		手 切 便 郵				類 種		局信著
	午 時 分						數 字		
者信送							局信發		注 意
							號 番		
發 信 人			宛 名				付 受		濁點又は半濁點ある文字の下は一字あけること 受信人に知らすべき發信人の居所氏名は本文の 終に書くこと
			定 指				時 分		
		文 本		局内心得					
				マニヒアサハ六ツク					
				サヒアサハ六ツク					
				ヨヒアサハ六ツク					
				シヒアサハ六ツク					
				サハ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ノ六ツク					
				リ六ツク					
				イ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					
				ハ六ツク					
				ケ六ツク					
				ダ六ツク					
				マ六ツク					
				サ六ツク					

五、ニと一、ミと三、ハと八、ヲとラ、ユとコ、クとタ、エとエの様な読み誤り易い字は特に注意して認めなければならぬ。

六、宛名にも本文にも敬語敬稱等は一切省くがよい。

七、頼信紙は次の例に倣つて書けばよい。
宛名 東京市牛込區原町一丁目六十五番地 池田正則
本文 二十五日朝六時着ク 正義

發信人 廣島市大手町三十五番地 池田正義

電報文の例

謹んで新年を賀す
軍旗祭を祝す
御榮轉を祝す
御昇進を祝す
創立記念日を祝す
父危篤すぐ歸れ

ツツシンデ シンネンヲガ ス
グ ンキサイヲシクス
ゴ エイテンヲシクス
ゴ ショウシンヲシクス
ソウリツキネンビ ヲシクス
チチキトクスグ カヘレ

十六日朝貴地着ク
二十三日午後三時着ク迎へ頼む
兄五日午前六時死す
荷物着いたか返待つ
百五十圓電送れ
其の後の容態知らせ
熱三十七度八分氣分よし

一六ヒアサキチツク
一二三ヒコ三ジ ヲクムカヘタノム
アニ五ヒセ六ジ シス
ニモツツイタカヘンマツ
一五〇エンデ ンオクレ
ソノゴ ノヨウタイシラセ
ネツ三七・八キブ ンヨシ

電話をかける時の注意

一、電話は、手紙や電報と違つて、お互に話し合ふ事が出来るのであるから、用件が判り易く、早く済むと云ふ利益がある。併し後には何も證據となるものが残らないのであるから、重要な用件は責任者が直接話し合ふが良い。

二、取次によつて先方の人を呼び出す場合に、呼び出した人が已に電話口に出て居るに拘らず、こちらが電話口に出て居ないのは失禮である。

三、電話で用談する時は、話しの初めにこちらは何かですが、何様でせうか或は何會社の何様です

か、とかいふやうに一應確めてから、話しかゝる方がよい。

四、電話口ではお互に顔が見えないから、何人が出て居るか判らない、取次だと思ふて居ると主人が出て居たりする事があるから、殊に初めは鄭重な言葉で話しかける様にした方がよい。

五、重要な用件は成るべく取次に頼まない方がよい、若し頼まなければならぬ時は、先方の取次をした人の姓名を聞いて置くがよい。

六、身分の高い人には、直接かけないで、取次の者から取り次いで貰ふのが禮である。

七、話中の月日とか、時刻とか、其他金高、數量、住所、番地などは間違ひ易いから、一寸書き留めて置くがよい。

第三章 郵便取扱に關する注意

第一 包装に關する注意

一、無封の書狀、定期刊行物（新聞雜誌等）書籍、印刷物、寫眞、書畫、圖、などは開封とし帯紙又は紐などで結束すること。

二、商品見本及雛形、博物學上の標本、農産種子などは、箱、又は袋に入れること、何れにしても

容易に内容が、檢査出来るやうになつて居なければならぬ。

三、小包の外装は途中損傷することがあるから遠方に送る物ほど、箱又は強い包装紙を使はなければならぬ、而して結束の繩も、途中で切れる虞のないものを使用すること。

四、郵便物には大きさ、重量の方には制限があるが小さい方には制限がない。然しあまり小さいと取扱に困るし、外の物の中に紛れ込む虞もあるから、手頃の大きさにする必要がある。

五、危険性のある藥品、病原菌などは特別の包装が必要であるし、資格あるものの外、警察の認可を受けなければ、送る事は出来ない。

六、臺紙のない寫眞、書、畫、などは厚紙か板で挟んで出した方がよい。

七、溶け易いもの汗氣の出るものなどは、防水布か油紙などで嚴重に包装する必要がある。

第二 反則の郵便物

一 郵便禁制品

左記のものは郵便として出すことが出来ない。

1 公安を害し又は風俗を壞亂する文書、圖、畫、其他内務省より發賣頒布を禁ぜられた各種の出版物

- 2 爆発性、發火性、其他郵便吏員に危害を加へ又は他の郵便物に損害を與ふる様な物件。
- 3 法令により移出入を禁止したる物件を、郵便により移出又は移入しやうとするもの。
郵便禁制品を、郵便物として差出したるときは、五百圓以下の科料に處せられ、其の物件は沒收される。

二 其他

- 1 信書を小包郵便となし、又は小包郵便中に包み込んではいけない。但し無封の添状又は送状は小包郵便物の中に入れて差支ない。
- 2 通貨（現行貨幣、紙幣、等）は通貨價格表記としなければ、之を郵便として出すことは出来ない。
- 3 金、銀、寶石類の貴重品は、物品價格表記、若しくは書留とするか、又は通貨價格表記に合封しなければ出すことが出来ない。
- 4 煙草は政府又は政府の命を受けた者でなければ、郵便によつて内地に輸入すること、及び朝鮮臺灣に輸出することが出来ない。

三 處分

- 郵便禁制品を封入したり、價格表記とすべきものをしなかつたり、無封郵便の性質でないものを無封郵便物にしたり、其他規定に違つて差出した郵便物は、郵便法違反として告發すべきもの外は、之を差出人に還付し、其の上料金を徴收される。
- 1 未納又は不足の郵便料は不納額の二倍。
 - 2 通貨を價格表記とせずに差出したものは、價格表記料の三倍。
 - 3 貴重品を書留又は價格表記とせず差出したものは、通常郵便であれば書留料の三倍、小包なれば書留郵便料との差額の三倍。
 - 4 價格表記郵便の表記の金額が、在中通貨の金高と異り、其の爲めに價格表記料に不足があれば其の不足額の三倍。

昭和八年四月五日印刷
昭和八年四月八日發行

新軍人と青年の書簡文典附

【定價金五拾錢】(送料共)

不許
複製

編輯兼發行者 東京市牛込區原町三丁目八番地
帝國在郷軍人會本部

右代表者 小原正忠
印刷者 藤井好祐
東京市牛込區原町三丁目八番地

印刷所 東京市牛込區原町三丁目八番地
帝國在郷軍人會本部印刷所

東京市牛込區原町三丁目八番地

發行所 帝國在郷軍人會本部
振替口座東京二〇〇七番

終

